

令和2年第4回糸魚川市議会定例会会議録 第3号

令和2年9月7日（月曜日）

議事日程第3号

令和2年9月7日（月曜日）

〈午前10時00分 開議〉

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

〈応招議員〉 19名

〈出席議員〉 19名

1番	平澤	惣一郎	君	2番	東野	恭行	君
3番	山本	剛	君	4番	吉川	慶一	君
5番	中村	実	君	6番	滝川	正義	君
7番	佐藤	孝	君	8番	新保	峰孝	君
9番	田原	実	君	10番	保坂	悟	君
11番	笠原	幸江	君	12番	斉木	勇	君
13番	高澤	公	君	15番	田中	立一	君
16番	古川	昇	君	17番	渡辺	重雄	君
18番	松尾	徹郎	君	19番	五十嵐	健一郎	君
20番	吉岡	静夫	君				

〈欠席議員〉 0名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市 長 米田 徹 君 副 市 長 藤田 年明 君

総務部長	五十嵐 久英君	市民部長	渡辺 成剛君
産業部長	見辺 太君	総務課長	渡辺 忍君
企画定住課長	渡辺 孝志君	市民課長	川合 三喜八君
環境生活課長	高野 一夫君	福祉事務所長	嶋田 猛君
健康増進課長	池田 隆君	商工観光課長	大嶋 利幸君
農林水産課長	猪又 悦朗君	ガス水道局長	樋口 昭人君
消防長	小林 正広君	教育長	井川 賢一君
教育次長	磯野 茂君	教育委員会子ども課長	磯野 豊君
教育委員会子ども教育課長	富永 浩文君	教育委員会文化振興課長 市民会館長兼務	伊藤 章一郎君

〈事務局出席職員〉

局	長 松木 靖君	次	長 松村 伸一君
係	長 上野 一樹君		

〈午前10時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員は、ありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（中村 実君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、4番、吉川慶一議員、12番、斉木 勇議員を指名いたします。

日程第2．一般質問

○議長（中村 実君）

日程第2、一般質問を行います。

4日に引き続き、通告順に発言を許します。

笠原幸江議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。〔11番 笠原幸江君登壇〕

○11番（笠原幸江君）

おはようございます。清政クラブ、笠原幸江です。

事前に提出いたしました通告書に基づき、1回目の質問をさせていただきます。

1番目、糸魚川ジオステーション、ジオパルの現状と課題と今後について。

「ジオパル」は糸魚川の魅力の発信基地として、JR糸魚川駅のアルプス口に平成27年の春に開設されました。施設として「ジオパーク観光インフォメーションセンター」、「キハ52待合室」、「ジオラマ鉄道模型ステーション」、「トワイライトエクスプレス再現展示」のほか、今後の予定として「くろひめ号」が展示され、5つで構成されることになります。鉄道愛好家の輪が大きく広がっていると関係者からお聞きしています。その中心施設として、さらなる飛躍に期待するものであります。また、子供たちにとっても遊びいっぱいのプラレールが、夢を乗せて楽しさ満載の場所となっています。市内外の人々が利用しやすい「ジオパル」は5年経過し、少し手狭感がありますが、現状と課題と今後について、以下の項目をお伺いいたします。

- (1) 開設当時のコンセプトは、どのようになっていますか。
- (2) 待合室としての現状に問題はないですか。
- (3) ジオラマ鉄道模型ステーションの利用度の分析をされていますか。
- (4) 管理運営は、現在どのような形態となっていますか。今後、ジオラマ鉄道模型ステーションを独立して管理運営されたらと考えるのがいかがですか。
- (5) 市民から利用済みになったプラレールの寄附を、開設当時にされています。このプラレールを有効活用するための現状はどうなっていますか。また、今後の企画を考えていますか。

2番目、市内いつでもどこでも安全・安心なおいしい水について。

私たちの生命を守り続けている地球からの贈り物「水」。当市においても井戸水から水道水に変わった水道法に基づく水道水になって68年に入りました。

私は、「安全・安心な水道水の確保について」を平成18年6月定例会で一般質問させていただいています。その後の経過と今後について、以下の項目についてお伺いします。

- (1) 経年管（石綿管）使用延長、糸魚川上水道7.8キロメートル、能生上水道2.3キロメートル、西海簡易水道3.8キロメートルについて、約10年間程度かけて交換とお聞きしていますが、完了していますか。
- (2) 水質基準項目は51ありますが、項目以外の水質検査は進んでいますか。特に水のおいしさに関する基準は7項目ありますが、その中の遊離炭酸の検査をその後されていますか。
- (3) 中山間地に散在する組合水道の公営化の進捗状況は、どうなっていますか。
- (4) 毎年6月1日に水道週間を掲げています。市民に引き続き周知をされていると考えますが、周知方法の工夫改善点はどうか。
- (5) 水道ビジョンでは、計画期間が平成21年度から平成40年度までと明記されています。自然や社会環境の変化とともに見直しする必要があると考えます。いかがですか。
- (6) 水道料金あり方検討委員会での資料の課題として、経営状況は令和6年から赤字経営に陥

ると示唆しています。その対策はどうですか。

3番目、資源循環型社会の推進について。

令和2年4月に新ごみ処理施設が稼働し、埋立てごみであったものの一部が燃やせるごみに変更され、4か月がたちました。さらに、容器包装リサイクル法が改正され、7月1日から海洋プラスチック問題や地球温暖化の解決の一步として（レジ袋）の有料化がスタートし、2か月がたち、広報いといがわ7月号で特集もされています。コロナ禍の中、1日も休まず収集を支えていただいたと感謝の声もあるとお聞きしています。一方、分別になれた市民の戸惑いや、燃やせるごみとして取り扱われることの利便性と様々であります。そこで、家庭ごみを減量するため様々な取組をしていますが、一向に減量が進んでいないのが現状です。減量目標値を達成するため、以下の項目について伺います。

(1) ごみ処理に係る経費は、年間1人当たりどのような推移となっているか伺います。

(2) レジ袋が有料化され、買物のときにマイバッグを持参される市民が多くなったと感じています。燃やせるごみの日に出す家庭ごみ用の袋があったらよいのではとの声もお聞きするようになりました。費用負担の公平な観点から排出時のごみ袋の有料化に着手される考えはありますか。

(3) 当市指定のごみ袋を作成し、安価で販売したらよいのではないかと考えます。県内の取組の現状と、当市として踏み込めない理由は何なのか伺います。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

笠原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、糸魚川ジオパークをはじめとする当市の魅力の発信と、市民、来訪者及び観光客の交流促進を目的として設置しているものであります。

2点目につきましては、ジオパルは糸魚川駅の待合室の1つとして機能をしており、特に大きな問題はないと考えております。

3点目につきましては、毎月、利用状況の報告を頂いているほか、随時、利用者に聞き取りを行っており、誘客宣伝や運営に活用いたしております。

4点目につきましては、現在、ジオパルの管理を観光協会に委託しており、全体で人員を調整できることなどから、独立した運営は考えておりません。

5点目につきましては、ジオパル内での展示やイベントで活用しており、今後、関係者等から意見を頂き、連携し、新たな企画を検討してまいります。

2番目の1点目につきましては、能生上水道、西海簡易水道は、23年度に石綿管の入替えが完了し、糸魚川上水道は、今年度の工事により全て入替えが完了いたします。

2点目につきましては、農薬類、ダイオキシン類、放射性物質の検査など、水質管理の強化に努めており、遊離炭酸の検査も毎年実施いたしております。

3点目につきましては、17年度から公営化の整備を順次進め、今年度の根知地区を最後に、計画している公営化は完了いたします。

4点目につきましては、ポスター掲示や懸垂幕により周知しているほか、小学生の施設見学やガス・水道フェアにおいて啓発活動を行っております。

5点目につきましては、国・県の水道ビジョンの方針を踏まえ、見直しを進めてまいります。

6点目につきましては、人口減少に伴い、今後ますます経営が厳しくなることが予測されるため、経営改善に取り組んでまいります。

3番目の1点目につきましては、ここ3年間は、ほぼ横ばいで推移をしておりますが、新たなごみ処理施設の稼働により、今年度以降は下がる見込みでございます。

2点目につきましては、令和2年3月に策定した基本計画の中で、市民の減量意識の改革につながる家庭ごみの有料化について、検討を続けますとしており、引き続き広く市民のご意見をお伺いしてまいります。

3点目につきましては、県内では指定ごみ袋制度を実施している自治体は1自治体であり、その他25自治体がごみ有料化を実施していることから、有料化と合わせて検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

2回目の質問をさせていただきます。

ただいま市長のほうから、開設当時のコンセプトをお聞きいたしました。それで、このコンセプトを利用される方はもちろんですが、私たちがいつでもステーションへ行ったときに、いろんな方、誰でもが安心して、その時間を共有する場所、様々な取組の中でやっております。

ただ、その時間の中で長時間、学生さんが待合せ時間に使ったり、あるいはその中で様々な資料を見たりとか、そんなときに、その場所で長時間いるということは、駅の中を待合いはもちろんなんですけども、学習のために長時間いたり、あるいはボルダリングをするのにお母さんと一緒にお子さんが行って時間を過ごす。そういうところの制限というのは、今現在はどのように考えていらっしゃいますか。長くいてはいけないという考えなのかどうか、聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おはようございます。

この施設につきましては、ただいま市長から答弁がありましたように、観光情報の発信と、あと市民、来訪者、観光客の交流促進を目的として設置した施設でございますので、特に長時間いてはいけないとか、そういう基準は設けておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

長時間そこで子供たち、あるいは学生さんの人たちが、資料を調べたり、それからそこで遊んだり、親子で遊んだり、それから、ジオパルの中でプラレールに触れたり、そういうことは問題ないということでもう一度、理解したいと思うんですけど、長時間いてはいけないというものではないということをもう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

鉄道やバスの待合い機能ですとか、あと学校帰りの自習の時間にお使いいただくとか、いろんな使い方があると思いますので、特に時間等の制限は、設けておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

そうしますと（2）の待合室としての現状なんですけれども、少し手狭感を感じております。それは徐々にステーションそのもの、あるいは駅北口のほうに様々な、今度くろひめ号も入ってきます。ですから、ちょっと待合室が狭くなってきているかなという感じはするんですけども、担当課としては、そのような感じは受けておりませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ジオパルの主な利用者につきましては、平日の時間帯によったり、あと土日の時間帯によっても利用者の質といいますか、利用者の方が、いろんな方がいらっしゃいます。特に平日の夕方には、高校生とかも、あそこをご利用になるものですから、時間帯によっては手狭になることがあるかと思いますが、観光インフォメーションコーナーのほうにつきましても、テーブル、椅子がございしますので、上手に誘導するなりをして、対応していくことが大切だろうというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

（3）番目のジオラマステーションの利用度の分析なんですけども、皆さんのほうでどの程度把握されてるか、ちょっと確認したいんですけど。要するに分析、年間の利用度がどれぐらいなのか、それから、集約してあるというか、その辺をちょっと数字を聞かせていただきたいんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ジオパル全体の入込みにつきましては、昨年度の実績では約31万人でありまして、そのうちジオラマコーナーにおける運転体験の利用者につきましては約3,300人であり、増加傾向であるというふうに捉えております。お客様は、市内の方のほか、富山、長野、東京方面から大勢おいでいただいとるというふうに理解しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

ジオラマステーションの利用等の分析、さらに有料で動かせる、例えば500円、それから施設を運営していらっしゃる皆さんにお聞きすると、すごくファンが多くなりまして、全国から糸魚川市のほうに、今コロナ禍のためにちょっと減少してますけれども、もう本当にファンの方が多くおいでになっておりますということをお聞きしてます。それから、そのファンの人たちが、ご自分の大切なグッズといいますか何というか集めた、とても趣味の広い方たちが寄贈してくれたりとか、それから、これはしばらく貸しますよとかというふうに展示物も増えてきたと思うんですけども、その辺のご理解というのは、行政のほうでどういうふうに分析されておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ジオラマコーナーの展示物につきましては、ご自宅で管理されていた方が、管理できなくなったんでジオパルで管理してほしいとか、いろんな形でジオパルのほうへ持ってこられる方が多くいらっしゃいます。おっしゃるように手狭になってきておりますので、倉庫に入れて、逐次、展示替えをするなり、ちょっと工夫して展示をしていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

そこで、私ちょっとお聞きしたかったのは、（4）に入っていきますけれども、先ほど市長答弁では観光協会に委託して管理運営してるので、新たな鉄道模型ステーションとしての独立の管理運営はしないという回答頂いてるんですが、これ全体を観光協会が全て網羅して、委託されてる業務内容の中にそれも入ってるもんなんですか。確認お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ジオパルの管理につきましては、あそこには大きく分けて3つの施設がありまして、ジオパーク観光インフォメーションセンター、あとキハ52待合室、ジオラマ鉄道模型ステーション、この3つを一括してジオパルということで、観光協会へ委託しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

すると中の企画というものも、観光協会のほうで、言葉で言ったら企画、運営までやれるようなもので、委託の項目に入ってるかどうか。私はちょっと無理だと思ってます。観光協会というのは、様々な窓口持ってまして、そのジオラマの中までの今の展示物だとか、あるいは何かを企画するというのは、とてもお仕事としては増えますので、あの駅のにぎわいを持たせて、観光客だけでなく、親子連れだとか様々な人たちの交流が生まれる場所と私は考えておりますが、委託の項目というのの中に企画まで入ってるもんなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ジオパルの運営等の業務委託の仕様書では、基本的には施設の運営全般に関する業務と、施設の保全等の全般に関する業務ということで委託しております。主には、施設の管理等が主なものになっております。実際の企画は、所管であります商工観光課が中心となって検討しておりますが、ただ、実際お客さんと接しておられるのは、現場におられる方ですので、随時打合せを行ったり、事あるごとに顔を出して、お話をお聞きする中で新たな取組等について検討しておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

それでは、観光協会がジオラマステーションの中で何か企画をしたという事例は、何かありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ジオラマコーナーの展示ですとか、イベント等につきましては、基本的には観光協会並びにジオラマのスタッフ等の発案によって行っているところでありまして、今後とも、観光協会並びにジオラマのスタッフ等と連携を取る中で、新たな取組、展示等について進めてまいりたいというふうに考えております。



〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

具体的なものが、まだされてないということですよ。それで、令和2年度の予算も見させてもらおうと、それらしいイベントだとか企画とか、そういうものがあまり上がってきえてないようにお見受けします。維持管理委託費というのは、全体に観光協会に渡されてますね。それで、模型ステーション、プラレール、キハ展示、トワイライトエクスプレス鉄道遺産、くろひめ号、子供から大人まで楽しめるスケールは、だんだん、だんだん大きくなってきてます。また、8月9日には、トワイライトエクスプレスが公開されております。今もされております。今後さらに、駅の南口、アルプス口、にぎわいを創出するために、私はぜひ企画が今後大事になってくるのではないかなと思っております。

トワイライトエクスプレスの中に、初日に吉川議員が質問された中に、今後あのトワイライトエクスプレス号の食堂車の中で、お食事を召し上がられるような企画も検討されていくということでございます。ですから、その企画案とか、例えばどういう形でそこでお食事が、私も今から楽しみにしてるんですけども、大変、ちょっと残念なのは、外形が杉材でできてるということだけなんですけれども、中はすばらしく、そのまま再現されております。そういう企画は、どこで今後やっていかれますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

トワイライトエクスプレスの再現車両でのお食事につきましては、JR西日本ですとか、あとそこで食事を取るということになりまして、保健所等の関係も出てきますので、協議を進めてるところでありまして、具体的な内容はこれから詰めることになりまして、基本的にはあそこで豪華なお弁当といいますか、少しおしゃれなお弁当を食べていただけるように、また、昼の部、夜の部ということで取り組めないか、今検討を進めてるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

検討を進めていくということなんですけども、商工観光課と担当者がその中に入って、観光協会も一緒になって企画をしていくという理解でよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今、観光協会が食事の提供も中心ということになりまして、市内の事業者にも公募をしまして、そ

こで食事を提供していただけるところについて、これから選定を進めていくことになっておりまして、準備が整い次第、なるべく早めに食事の提供について周知に取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

大きな期待をしております。

（5）番に入ります。市民からの利用済みのプラレール、今現在、5年たちますけれども、今現在、管理はどのようになってますか。まだ寄附されたものがどこかに、倉庫にあるのか、今とてもステーションの中にプラレールが、本当に夢乗せて圧巻で動いてますけれども、まだまだ使えるようなプラレールの在庫というのは、残っておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

新幹線開業時に、皆様からプラレールをご提供いただいた中から、今、一部であります、ジオラマコーナーに展示しておるわけでありまして、倉庫には、まだ幾つかの箱の中に入れて、レールですとか、鉄道ですとか、あるというようにお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足して、お答えさせていただきます。

イベントのときには、そういった倉庫にあるものを使わせていただいておりますし、また、やはり時々、展示替えをしながら利用させていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

その当時、開設当時にプラレールの件でタカラトミーさんとの契約というのは、今どのような状態になって、まだ続いているものなんでしょうか。ちょっと気になるところなんですけれども、契約年数とかそういうものがあるのか、それをちょっとお聞かせ願いたいんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

タカラトミーさんとは、開業時のイベントから契約をしているところでありまして、現在も続い

ておる状況でございます。使用期間につきましては、基本的には常設展示が撤去されるまで続いているということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

提案なんですけれども、子供たちが夢を一番興味を持って、小さいときからタカラトミーさんのプラレール、それをまず手に取って、それがだんだん大人になっていって、今のファンが多く集まっているというジオラマにおいてになる方たちの夢であれ、それが大人になって経済的なものもありますけれども、ぜひプラレールをもう少し活用するために、全国でもあまりやってないんですけれども、いかがですか、ギネスに挑戦するという、ちょっと無謀な計画かもしれないんですけれども。今年にはコロナ禍で駄目だけれども、ヒスイ王国館の広間を使って、ギネスは無理だったら、何かすごいレールをつないで、どれぐらいの期間、どれぐらいの距離があの中で精査できるかというようなものを、いま一度、企画の中に入れてもらえれば夢があつていいのではないかなと思ってるんですけれども、そんなちょっと無謀な提案なんですけど、その件についてはいかが考えておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

プラレール、そしてまた、ジオラマの鉄道模型、両方とも好評でございます、非常にどちらもやはり手狭感を感じておる状況であります。そういう中で、非常にプラレールということになりますと、小さいお子様でございますので、やっぱり安全な広い場所が必要になってこようかと考えておりました、今、議員ご指摘のような、やはりプラレールはイベントの大会は全国でやるとるんですが、常設展示、常設の会場というのは糸魚川市だけと聞いとるわけでございますので、そういったところをやはりしっかりやっていくことが情報発信の大きな事柄になるだろうと思っておりますので、そういった機会なりイベントを今後考えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

全国的に見ると学校の、要するに廃校になった体育館とか、そういうところで子供たちに実際にレールをつないでもらって、専門家の方がそれを点検して、何かあれは大変厳しいらしくて、電池がなくなって終わるといようなシステムになっているようなんです。しかも幾つもの電池を使うんじゃないんで、1個の電池でそれを動かすということでもありますので、ぜひまた、何かの機会があったら、子供たちに触っていただくというやり方もあるのではないかなと思います。

プラレールも当初、寄附されております。5年ぐらいたっておりますが、また、おうちで要らな

くなったというとおかしいけども、ちょっと子供たちも成長して、ちょっとこれも市に寄附したいなというお子さんたちが、お母さんたち、あるいはお父さんたちがいらっしゃった場合の窓口としては、考えておりませんか。たくさん集めるのは、何かやぶさかではないと思うんですけど、その点はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今ほどのギネスへの挑戦というのはともかく、コロナが収束した際には、広い場所で走らせるイベント等も面白いと思っておりますので、そういうところに向けて、さらにレール等の収集といえますか、寄附を頂けるような取組も今後やっていく必要もあるのではないかとこのように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

糸魚川市内に、このプラレールのとても精通していらっしゃる方もいらっしゃるというお話もお聞きしておりますので、そういう人たちの知恵もお借りする中で進めていただければいいかなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

2番目の市内いつでもどこでも安全・安心のおいしい水のほうに入らせていただきます。

説明させていただいたんで、10年間かけてといういことで、いま一度答弁いただきたいんですけど、終わっておりますでしょうか、（1）の問題です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

樋口ガス水道局長。〔ガス水道局長 樋口昭人君登壇〕

○ガス水道局長（樋口昭人君）

おはようございます。

お答えいたします。

石綿管の取替えにつきましては、先ほど市長が答弁したとおり、能生上水道、西海簡易水道につきましては、平成23年度に完了しておりますし、糸魚川上水道につきましても、浦本地区が26年度、大野地区が29年度、そして今年度、竹ヶ花地区の工事で全て取替えが完了ということになります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

この経年管については、まだ工事がお済みでない場所というのは何か所かまだあるものなんではないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

樋口ガス水道局長。〔ガス水道局長 樋口昭人君登壇〕

○ガス水道局長（樋口昭人君）

基本的には、石綿管は全て撤去して、なくなった状態でございますが、ただし、建物の下だとか、あと民地など、一部撤去が不可能なところがございまして、そういうところは一部残置している状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

（2）番なんですけれども、水質検査をやっていたら遊離炭酸、これは先ほどの答弁でしてますということなんですけれども、これ今現在、私、平成18年に一般質問したときは、まだ検討して下さるということだったんですが、これいつ頃からこの検査の対象として、毎年やっていたらいいもんなんですか、時々やるもんなのか、これはどうなっているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

樋口ガス水道局長。〔ガス水道局長 樋口昭人君登壇〕

○ガス水道局長（樋口昭人君）

遊離炭酸の水質検査につきましては、毎年、上水道、簡易水道の管末の一部で、年4回の頻度で行っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

おいしい水、糸魚川の水はおいしいんです。一般的にとてもカルシウムがたくさん入ってて、あと様々な成分が、糸魚川の水道をひねるとジャーと出てきてるあの水というのは、糸魚川の、私の調べた範囲の中では大変体にもいいしということでおいしい水。冷たさというのが夏と冬ではあれなんですけれども、その中に水温が一番ネックになるんですけれども、マグネシウム、カルシウムとか、今言ってた遊離炭酸、この検査をしっかりと、ほかのものは全部、51品目の中に入ってるんですけれども、せっかく調べていただいて本当にありがとうございます。そういうものを調べて、市民の皆さんにお知らせするというのは、私、とても大切だなと思っておるんですけれども、しっかりと前回、18年のときは50項目だったのが、今度51項目ということでやられております。そういうものをお知らせする意味で、ホームページだけに載せるんじゃなくて、何か市民の皆さんにも目に届くようなことというのはできないもんなんじゃないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

樋口ガス水道局長。〔ガス水道局長 樋口昭人君登壇〕

○ガス水道局長（樋口昭人君）

お答えいたします。

水質検査の結果につきましては、今現在、水道法で検査義務のある51項目しかホームページで周知してはおりませんが、やはり市民の方が安心して水を飲めるようにということで、今、議員おっしゃるような遊離炭酸、あるいは水のおいしさを感じられる水温等についても、今後ホームページ、それから毎年実施しておりますガス・水道フェア等、人が集まるような場所においても水のおいしさについて周知等をしてまいりまいたいというふうに、今後検討してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

ぜひ市民の皆さんに糸魚川の水のおいしさを、これ嗜好に入ってくるのかもしれないけど、糸魚川の水嫌だという方も、中にはいらっしゃるかもしれません。

ただ、私は大変おいしい水だと感じております。カルキの臭いが時々、これはもう水道法で決められてる基準の中で消毒をしなければいけないというものの中の1つでありますので、これはそのための安全・安心な水でありますので、私は、ただカルキの臭いをどうするかというと、私は冷たい水にするために一旦やかんで蒸発させて、生で飲む水は、それを使ってやっております。やかんで沸騰させると、とてもカルキが飛んでって、後、冷ましたものをペットボトルなんかに入れて、冷蔵庫に入れとくと、とてもおいしいがぶがぶ飲めるという、一旦煮沸してるというふうな状態なんですけども、糸魚川の水は大変おいしい水だと思っております。

それでは5番目の水道ビジョンの中で平成21年から40年で書いてあるんですけども、見直しをしなければいけないんじゃないかなと思うんですけど、ちなみに平成40年という明記というのはあまりよくない、令和になっておりますので、そういうところをしっかりと変えていく必要があると思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

樋口ガス水道局長。〔ガス水道局長 樋口昭人君登壇〕

○ガス水道局長（樋口昭人君）

お答えいたします。

水道ビジョンについては、今後20年後の目標ということで、前は平成ということを表示させていただいておりますが、既に現状と乖離が生じてる部分もございますので、今後、状況を見る中で新しい水道ビジョンのほうを策定していきますので、その中で今後の目標年度も検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

それから、本当、環境も随分変わってきてますので、進めていってほしいと思います。

6番目なんですけど、今後どうされます、令和5年から赤字経営ということが明記されてるんですけども。黒字になるようにと言うけど、人口減がだんだん急速に、増えることはないと思うんですけど、その考えはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

樋口ガス水道局長。〔ガス水道局長 樋口昭人君登壇〕

○ガス水道局長（樋口昭人君）

議員の言われるように、今後ますます経営が厳しくなることが予想されますので、その対策として、施設の計画的な更新や施設基盤の見直し、また、維持管理の見直しや料金収納業務などの民間委託の検討、また直近では、料金の見直し等などを行い、事業の継続を図ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

今後、そういう検討する中で、上下水道の施設を一体管理した包括的民間委託の方向で、それも検討の中に入れていただきたいなと思っております。

当クラブ会で、平成30年の10月30日に石川県かほく市に視察調査に行っていました。地理的条件は異なるんですけども、大変成果を上げております。そんなことも参考になるのかなと思って、今日、提案させていただきました。赤字に陥らない前にそういう、黒字の状態のときにそういう包括的民間委託の方向で検討されるのもいいのではないかなと思っておりますけど、市長いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

先ほど議員も指摘いただいたように、地理的条件が違う、非常に当糸魚川市は海岸線に面して、横に長い市でございまして、非常に地理的条件が不利な状況でございます。そういう中で民間委託、また、そして市民のライフラインというところがございますので、そういったところを合わせながら、やはり経営をしっかりとやらなくちゃいけないんだろうと思っております。市民の皆様方に負担がかからない方法は何かというものを捉えながら、取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

3番目の資源循環型社会の推進についてをお伺いいたします。

いかがでしょうか。現在、年間1人当たりごみにかかる経費というのは、今どんなような状態で

推移してますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

市民1人当たり1年間にかかる費用につきましては、過去3年間、1人当たり2万円から2万1,000円ぐらいの規模で推移しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

1人当たり2万から2万1,000円というのは、ちょっと1人ですから、大変な経費がかかっているなと思っておりますが、令和2年、これは過去の推移ですから、今後、令和2年度の見込みというのは、どんなふうに皆さん、まだ上がっていくのか下がっていくのか、そういう試算というのはしておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

新しい清掃センターの建設が終わったことから、人件費分が下がっておりますので、まだ予算ベースではありますが、今年度1人1年当たりの経費につきましては、1万7,884円と試算させていただいております。これにつきましては、先ほどの経費から考えますと、14%減額となったということになります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

見込みとしては14%下がる。上がるより下がるのほうがいいんで、今後、最終処分場もきちっと整備されると、またどんどん変わってくるのではないかなと思っております。

ところで、ごみ袋、今、レジ袋が有料になったために家庭では、家庭ごみを出すときに袋がなくて何とかならないかねという相談が来てるんですけども、当市はそういうごみ袋の有料化というのは、今現在も考えていないもんなんでしょうか。他市の市町村の、県内の市町村の具合というのはどうなってますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕



○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

おっしゃったようにレジ袋の有料化制度がスタートしてから、各家庭ではホームセンター等でゴミ袋を買われて、ゴミ出しに利用されているというような情報をよく聞いております。

また、市内の大手スーパーにお聞きしたところ、7割から8割の方はもう既にマイバッグを使われるということですので、そういったものに移行しているものかと思えます。

また、新潟県内でのゴミ有料化の状況でございますが、現在30市町村のうち、25市町村が有料化をしております。当市におきましては、新しくつくりましたゴミ処理基本計画の中で、市長答弁のとおり、市民の減量意識の改革につながる家庭ごみの有料化について、検討を続けますとしておるのが現状でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

当市としては、ゴミ袋の有料化を進めるという方針はないということで理解してよろしいでしょうか。有料にすることによって、条例もつくらなければいけないということではありますが、そのところは平成25年のときに、一応そんなお話も出てたんですけども、今現在進められておりません。今後ずっと有料化については、着手しないということの理解でよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

ゴミ処理基本計画をつくる際に、家庭ごみの有料化についてアンケート調査を行っております。こちらのほうの調査結果の中では、有料化したほうがよいと思うかという質問に、思う、思わないという回答よりも分からない、どちらとも言えないという回答が大変多くございました。ですので、こういった面につきましては、また、市民と対話をする中で検討していく必要があるというふうに思っております。

それの中と並行いたしまして、市の施策としましては、今年度新しいゴミ処理基本計画の中では、中高生向けのごみの減量の対策ですとか、新しくできた清掃センターの見学会を通したごみ減量の取組ですとか、食品ロスに対応するためのドギーバッグの検討等を進めておりますので、そちらのほうをまず先行して進めたいと。有料化については、市民との対話を続けたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

そうしますと、当市として踏み込めない理由は、市民の声がどちらでもいいというふうなアンケ

ート結果をもって、そのように進められていないんだという理解でよろしいですか。アンケート採ったら思う、思わない、分からない、じゃあやらないでいいという理解でよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

有料化をしないということではなくて、先ほど申し上げましたように、このごみ処理基本計画をつくる中で、アンケートを採ったところ、まだ有料化に関する認知度というのが非常に低いなというふうに考えられました。そういったものをごみ減量等推進審議会の中で協議した結果、当面は検討を続けるというような結果になったということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

アンケートを採った結果、審議会の中で決めちゃったというふうに私は理解してるんですけども。実はそうでなくて、本市として地球環境に貢献するという、そういう大きな大義名分といいますか、大きな柱で考えれば、他市町村も、もう25市町村がもう既にやっておられるということなんで、もうそろそろ糸魚川市も、理由がはっきりしないですね。まだはっきり、これだからしないんだというのがあればいいんですけども、何か市民にどうしましょうかというのを聞いてるだけの様な気がします。

私は、今ここに着手しないと、やはりごみにもお金かかってるわけですよ。2万円から2万1,000円、今までかかってた。それを減量するためにいろんな施策をやってるわけだから、ごみ袋、今ちょうど市民の皆様もマイバッグ持ち始めたら、スーパーの5円、3円の袋が、だったら市にお金を払ったほうがいいよねというような形に、今市民の感覚も変わってきました。ですから、公平な、公正な立場からいくと、1人当たり2万円払うのと、年間2万円払うのと、皆さんでごみを少しずつ減量しようという気持ちを引き出すためには、今やらなければいけないと思っておるんですけども、ぜひ機会を見つけて、コンポストだとか電動ごみ処理機だとか言っても、なかなか今それを使う人たちもいなくなってきましたので、そういうところも考慮していただきたいと思っておりますので、市長いかがですか、なかなか他市では、市長さんの選挙公約で、私はごみ袋を有料化はしませんという公約もされた各市町村の中にいらっしゃるからお話は聞いたことがありますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはりごみの有料化とか、いろいろ施策挙げられましたが、究極はやはりごみの減量だと思って

おります。ごみをどのように減量していくのか。それが焼却場の延命にもつながる部分もあるわけでありますので、市といたしましても非常に大変な環境、ごみの焼却施設については、こういった事柄を経験したわけでございますので、やはり全体的に1つの施策をどうのこうののではなくて、私は全体にごみの減量化というものをやはり真剣に考えていかなくちゃいけないと思っております。それにはやはり有料化というものがあるわけなんです、理解されなくて進めていっても、ただ有料で終わったということだけで終わってしまうわけであります。それでは本当の目的に達せられない部分がありますので、本当にごみの減量というものを真剣に捉えた中で、市民の皆様方とやはり共有して、施策を進めていきたいと思っております。やはりごみの減量というものを市民と皆さんと一体となって向き合っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、笠原議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

11時5分まで暫時休憩といたします。

〈午前11時00分 休憩〉

〈午前11時05分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。〔15番 田中立一君登壇〕

○15番（田中立一君）

市民ネット21、田中でございます。

発言通告に基づいて、一般質問を行います。

1、新型コロナウイルス感染症による影響と対応について。

(1) 経済、雇用への影響について。

① 市内事業所における、新型コロナウイルス感染症による解雇・雇い止めの状況と雇用調

整助成金の活用について伺います。

② テレワーク導入・実施の状況と、今後の普及に対する支援についての考えを伺います。

(2) 災害時の避難所運営について。

台風シーズンを迎え、豪雨など自然災害に対し、コロナ禍での避難所設置・運営について「3密」の回避や検温など、対策についての考えを伺います。

(3) コロナ禍における文化・芸術振興について。

新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制限され、発表の場を失っている文化・芸術団体ではありますが、県は文化芸術分野を盛り上げるため「新潟県文化祭2020」を開催しました。12月31日までの会期中、動画の配信などを展開しますが、市ではどのように参画を考えているか、考えを伺います。

また学生も、吹奏楽や合唱などの各種大会やコンクールが中止となり、発表や集大成を披露する機会が失われておりますが、練習や代替事業についての考えを伺います。

2、糸魚川市の農業について。

(1) 2020年産米について。

7月は雨が多く、記録的な日照不足となり、8月は残暑厳しく、高温による米の劣化が心配されますが、情報の把握と対策について伺います。

また県とJAは、新型コロナウイルス感染症の影響で主食用米の需要減少が見込まれ、価格下落の危機感から「田んぼ一枚転換運動」を推進しておりますが、市内生産者の取組についての考えを伺います。

(2) 中山間地の農業について。

① 県の中山間地モデル事業について。

県では、経営環境に不利な中山間地に対し、所得保障を定額で助成するモデル事業を、平成29年度から県内3地区ずつ選び行ってまいりましたが、市内では徳合地区が第1期のモデル地区に選定され、今年の3月で助成期間が終了しました。本事業の検証と今後について、どのように考えているのか伺います。

② 薬草・生薬事業の取組について。

当地域は昔から、良質なヨモギなど薬草の採取が盛んで、農家にとって農繁期の合間の重要な副収入にもなっておりました。

高齢化等社会環境の変化に伴い、従事者も減少しているように見受けられますが、一方で生薬栽培を目指す動きもあります。

中山間地の産業として薬草や生薬の栽培、生産の現状と今後について、どのように考えているか伺います。

③ 農地の集積状況について。

2014年度に始まった農地集積バンク事業は、中山間地において苦戦し、担い手の確保が難しい状況のようではありますが、当地の取組と市の考えを伺います。

3、空き家対策について。

7月に、市内の特定空家に認定されている空き家1棟を取り壊す、略式代執行が行われました。市内では空き家が多く存在し、今後も増え続けると予想されますが、空き家の現状と特定空家に認

定されている空き家について、今後の対応を伺います。

#### 4、動物愛護の取組への支援について。

8月11日、12日に上越市内で、動物愛護団体による野良猫増殖地で捕獲した猫に不妊・去勢の手術が行われました。

野良猫増加による住民トラブル防止、殺処分される猫の減少を目的として、2日間で約30匹の猫に手術を行いました。

主催団体の話では「餌づけによる野良猫の増加や、多頭飼育の崩壊に関する相談が多く、多頭飼育の崩壊は高齢、生活困窮といった事情を抱えた飼い主に関係するケースが多い」と述べています。

また「ボランティアも時間、資金、人数の点で限界に来ており、行政主体にボランティアが協力する形がよい」とも報道されていました。

糸魚川市内においても同様の事案や犬などペットに対する飼い主のマナーといった問題も聞かれますが、現状の把握と取組への考えを伺います。

以上、よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、8月28日現在、解雇・雇止めが数件、雇用調整助成金が88社212件、緊急雇用安定助成金が43社105件の申請とお聞きいたしております。

2つ目につきましては、市内でも実施企業があり、今後も普及する見込みであることから、国の支援制度の活用を推奨してまいります。

2点目につきましては、避難スペースでの間隔確保や発熱者等の専門スペースの設置などを適切に行えるよう取り組んでまいります。

3点目につきましては、新潟県文化祭2020を通じて、多くの方から文化・芸術に触れていただけるよう努めてまいります。

また、生徒の音楽活動につきましては、今後、定期演奏会や校内音楽祭などが予定されており、市といたしましても支援してまいります。

2番目の1点目につきましては、農業情報メールでフェーン予測などの気象や栽培管理情報を提供しております。

また、田んぼ1枚転換運動につきましては、需要が減少している酒米生産者を中心に取り組む予定といたしております。

2点目の1つ目につきましては、地区が一体となって活動することなど一定の成果につながったと考えております。

2つ目につきましては、薬草・生薬ともに技術的な課題がありますが、業者と結びついた確実な販売が見込めることから、今後も所得向上に向けた取組を推進してまいります。

3つ目につきましては、目標には及ばない状況となっておりますが、当市のような中山間地においては、集落の維持や農業用施設の維持管理を考えた場合、兼業農家や販売農家も大事ではないか

と考えております。

3番目につきましては、今年度空き家調査を実施しておりますが、前回の調査件数と比較すると増加いたしております。

なお、現在、特定空家はございません。

4番目につきましては、行政とボランティアがそれぞれ連携し合いながら、多頭飼育等の課題に取り組んでいくことが大切であると考えております。今後も各団体と意見交換を行いながら、県とも連携し、動物愛護の取組を進めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

雇い止め・解雇、これが数件あったと今報告がありました。6月の時点においては見受けられないような答弁だったかと思えますけれども。

先日、新聞紙上で全国の数がかなり、5万人以上とか5万件以上とかというふうに載ってました。これはハローワークで相談を受けた、そのハローワークでの集計ということで、今の数字もハローワークというふうに話されましたけれども、実際は、もっとじゃあ多くなるんじゃないかなというふうに私は思うんですが、その辺の認識と数件というところなんです。もうちょっと詳しい人数とか、あるいは業種別とかというのが分かったらお願いしたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

コロナの関係の解雇ですとか雇い止めにつきましては、あくまでもハローワーク等で手続された方によって分かる件数でありまして、もしかしたら、個人事業主で分からないところでそういうものが起こっている可能性はあります。

あと数件ということにつきましては、ハローワーク糸魚川から頂いとる情報でありまして、具体的なものは非公開ということでお願いしたいとのことでありますので、ご理解いただきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

金曜日の一般質問でも雇用調整助成金が88社212件、緊急雇用安定助成金が43社105件、こういう数字があったわけなんですけれども、今日もありました。6月の議会で伺ったときは、33社だったか、支給決定額が1,000万円を超えているというふうに答弁を頂いたかと思いません。およそ3か月で3倍に増えて、さらに緊急雇用安定助成金、これも43社あるわけなんです。

もうちょっと詳しく内容が、業種別だとか、あるいは金額だとか、分かればお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

雇用調整助成金と緊急雇用安定助成金につきましては、当初、9月末までということでありましたが、コロナ禍の影響が長引いているということで、国も12月までの延長を決定したところであります。金額的なものにつきましては、雇用調整助成金と緊急雇用安定助成金、合わせて1億3,000万円弱が支給決定されているというふうにお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

支給決定が1億3,000万、かなり金額に上ってきているというふうに思います。今ほどの答弁でありましたように、雇用調整助成金の特例は12月まで延長になりました。市のほうでも申請に対する助成制度はありますけれども、それに対する検討はありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

市につきましても、この雇用調整助成金等をもたらすための申請に係る費用の2分の1、10万円を限度として補助する制度がございます。当初、12月28日までの申請期間としており、当初と違いますか今現在、12月28日までの申請期間としておりますが、今、国で延長という決定がなされましたので、その状況を見まして、3月までの延長について検討しているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

雇用調整助成金も緊急雇用安定助成金も、どちらかという企業、事業主のほうへの助成金なんですけど、雇用調整の関係でもう一つ、新型コロナウイルス感染症対応休業支援金給付金、これは労働者のほうに対しての支援金なんですけども、あまりこの情報が流れてこないんですが、この辺の把握というのはどのようにされていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

休業したにもかかわらず、休業といたしますか企業から休んでほしいと言われたにもかかわらず、

休業補償金がもらえない場合は、個人でも補償金を申請することができる制度ではありますが、この制度の内容につきましては、特段ハローワークからはお聞きしていない状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

聞いていないのは、ないからなのか、それともどうなのか。ちょっと情報を把握する必要もあるのではないかなというふうには私に思いますので、またその辺検討してみて、よろしくお願ひしたいと思ひますし。

私がこういっただことを心配しているのは、今回、延長になりましたけれども、こういっただ制度が切れたとき、本当にこちらの地域の景気や業績が回復まだしてないとき、休業がそのまま失業につながるんじゃないのかなということがちょっと心配なんであります。そういっただことに対する考えというものはございませうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

市といたしましても、地域の経済を守るため、これまで様々な経済対策を行ってきております。また、さらには国ですとか県で、いろんな制度が出てきておりますので、それらを使っただいで、何とか雇用というものを守っただきたいというふうには考えておりまして、市もこの助成金の申請に当たって、半額10万円ではありませうが、補助制度を設けて助成金が申請しやすいように支援をしているところでありまして、今後ともその動向を見守りながら、新たな支援についても必要があれば検討してまいりたいというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

どうしても景気の回復は、地方または大企業よりも小規模な事業所のほうが回復は遅れる傾向にありますので、やはりその辺の情報の把握と対応というものをしっかりお願ひしたいと思ひます。

次に、テレワークであります、実施した企業は数社、数社と言いましたっけ、されている企業があるというふうにお聞きしましたけれども、やってみての課題とかそういっただことについて、何か情報はありませうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

テレワークにつきましては、今現在行われております糸魚川経済団体連絡協議会のアンケート調査の速報ですと、まだ一部の回答ではありませうが、この期間中に13社が何らかのテレワークを実



施したというふうには、回答したというふうにお聞きしております。当地域における課題といたしましては、糸魚川地域、糸魚川市につきましては、基幹産業が製造業ですとか建設業が多いわけですので、その中でテレワークができる業種、事業所というのは限られてくるかというふうに思います。

ただ、全国的にテレワークの動きは加速していくものと思われまますので、どのような事務についてテレワークができるのか、また新たな展開が出てくるかと思っておりますので、その辺について、また研究してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

今後、市内においてもテレワークの普及が進んでいくのかなというふうに思うわけですがけれども、またそれを見越した取組もいろいろ出てくるのかなと。

先日、新聞折り込みに権現荘が出てありまして、テレワークプランというものがありませんでした。非常に私はこれ、今実績はどうか分かりませんが、こういう取組、前向きで大変評価したいなと思うところでもありますけれども。これいつ頃からやっているのか、もしこの辺の概要、あるいは内容等についてお分かりでしたらお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

このコロナ禍におきまして、全国的にも旅館・ホテル等で空き室を利用したこういう取組が行われてきているというふうに承知しております。この権現荘の取組につきましては、9月1日に新聞折り込みをいたしましたところ、全国から数件お問合せを頂いておる状況であるというふうにお聞きしております。

基本的な内容は、一月単位の契約で、土・日・祝日を除く20日間について、お一人様で朝食、温泉つきで6万2,000円のプランであるということでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

私もこのチラシを見て、改めてホームページ権現荘を見たら載っておりますし、反応がどんなかなというふうに注視していきたいなと思っておりますけれども、市内の同様の業者の中でもこういう動きがもしあれば、何らかのまた必要な支援があれば、あるいは助成があれば、やっていってもらえればいいんじゃないかなと思っておりますが、その辺の考えというのはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

現時点では、市内の他の温泉、ホテル等からは、こういう情報はお聞きしておりませんが、いずれにしても、W i - F i 環境等が整備されておるところについては、こういう取組が可能でありますし、また今後、いろんな情報、ネットワークの整備というのをまた強化していく必要があると思いますので、そういう市内の観光施設、宿泊施設等で通信環境が脆弱なところがあれば、そういうところも支援をしていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

私の知人も、テレワーカーの知人がいて、どこか在宅で勤務するにはやはりいろいろな課題があってできないから、在宅じゃなくて、ちょっと一歩家を出てやると。例えば図書館に行ったんだけど、図書館では電源が借りられない。やっぱりパソコンを持ち込んで、そういうオンラインのことができる。あるいはミーティングもできればできる。安価にできるとか、そういうものがあれば、またいろいろとこういう面の発達といえましょうか進展があるんじゃないかなど。そういったことでいろんな、これからケースがあるかと思えます。よろしくお願ひしたいと思えます。

それから次に、2番目の災害時の避難所運営についてであります。避難所運営については、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所運営のポイントということで内閣府のホームページにもガイドラインが示されております。これはかなりボリュームがありますので、全部いろいろ聞いてると大変ですし、基本的なことでもありますけれども、先ほどの答弁にもありましたが、一応、第一避難所となる指定避難所における受付時でのアルコール等の消毒剤やマスク、それから非接触型の検温などの準備、こういったことはもちろんなんでも、感染症対策として、運営スタッフの手袋とかマスク、カップ等、いわゆるP P Eと言われる個人用防具、そういったものの準備というのはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

お答えいたします。

避難所における感染症を考えたときの対策として、今おっしゃったような手指消毒とか検温とかが必要になってきますが、当然それに当たる職員についても感染防護衣を着用するという事で、その数を備蓄し、用意しておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

先ほどの答弁でもありましたが、避難スペースの間隔確保と言われるんですけど、なかなか難し

いところがあるのかなど。そういったことを想定してのシミュレーションや訓練的なものは、されているのかどうか。で、やってみての課題というものはいかがだったのか、その辺の具体的な内容についてお聞かせ願えればと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

避難所における間隔の確保ということで、おおむね1人当たり4平米、通常これまでは2平米程度だったのが、4平米ぐらい確保しなさいよと、こういう指針になっております。そのために間仕切りをする段ボールの壁とか、あるいはほかの物質によって間仕切りをする。そういったことも含めて訓練をしております。

また、併せてなかなか間仕切りばかりでなく感覚的に空けるということで、体育館の中をテープを張って、4メートルの間隔ってこのくらいなんだよというところを明示しながら訓練したところでございます。

なかなか実際に訓練をやってみて、その準備に、間隔を取るための準備に結構時間を要するなという部分もありますし、なかなかこれまでどおりの収容人数は、とても入れないなというところも実感としてありまして、やはりそのために、避難するときのために何でもかんでも今までのように避難所に行くのではなくて、やはり知人のお宅に避難するとか、あるいは自宅で待機するとか、そういったことも大事だなということで、そちらのほうの周知も合わせて始めたところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

やはり今までよりも手間も時間もかかり、今までのようなわけにはいかない。2平米から4平米になったと。ホームページ見ると、まだ2平米のように見えるんですけども4平米になったということで、その辺のことを今度これから住民の皆さんにも周知していくと。各地域には、自主防災組織があるわけですけども、そちらとの連絡、あるいは周知というのは進んでいるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

お答えします。

今、各地区の自治会、自主防災組織等を通して、住民の方一人一人にそういうお話をしていきたいということで、出前講座をしていこうということで予定しております。

ただ、今コロナ禍で、なかなか地区単位であっても集会はなかなか設定しにくいということでちょっと進んでおりませんが、できるところから地区の同意というか、うちの地区でまず役員だけでやろうとか、そういったところからは始めておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

今現在、台風10号、台風シーズンもう今真ただ中であって、コロナ禍でなかなか、思ってもその辺の活動がやりづらいなということはよく分かります。大変でしょうけれども、その辺のこと、またしっかりとやっていただければと思うんですけども。

もう一個、検温で発熱があった方のおられる場合、先ほど別室を用意されるとマニュアルでもそう書いてありましたけども。別室を用意すると、簡単にはなかなか難しいんじゃないかなと。お一人だったら一部屋の確保はあれですけども、複数に上った場合、いろんなシミュレーションがあるかと思いますが、その辺に関する、いわゆる発熱があった場合の対応をどのように考えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

お答えします。

まず、受付で、避難所に入ってくる前に受付で、まず体温を測る。非接触型の体温計で体温を測る。その段階で発熱をされるという場合であると、一般の避難者の方とは動線を分けて、別のルートを通して離れた部屋にまず入ってもらうということで動線を分けること。そして、居場所を分けること。これを各避難所ごとに平面図を書いて、こういう方はこっこの部屋に入ってもらんだとか、誰が誘導するんだとか、そういったところまで決めて検討しておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

スタッフの確保も、なかなかこれから大変じゃないかなと思います。今回、質問の中で、新型コロナウイルスの感染、これを気にかけることによって避難をためらうようなことがあってはならないと思うわけでありますので、心配なく避難ができる体制が必要だという観点から、今幾つか伺いました。よろしくお願ひしたいと思います。

次、3番目、文化・芸術振興についてであります。動画の募集は、8月31日で終わったんじゃないかなと思いますけれども、この辺の市内の団体への周知や応募状況というものはいかがだったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

新潟県文化祭2020につきましては、動画の応募については終了しております。

糸魚川市内の周知方法ですが、市民会館のホームページに掲載することと、県からチラシが届いておりますので、施設に設置いたしました。

なお、応募状況につきましては、市で把握している応募団体は2団体ですが、県に問い合わせたところ、もう数団体あるというふうにお聞きいたしました。正確な数字については教えていただけませんでした。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

今後、コロナとの共存の中で、文化活動の再開が順次行われていくわけですが、30日の日に県と県公立文化施設協議会が主催して、講演や練習での3密の避け方や感染対策のポイントを共有する感染対策の説明会、これは県内4会場で行われている中で、30日の日に上越でも行われました。上越一円を相手に、対象にしていると思うんですが、市内からの参加者状況はいかがだったでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

市内の参加者ですが、市民会館の職員が1名出席しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

今後の民間団体、あるいは個人が主催して事業を行う場合の練習や講演、講演会等において、控室、入退場時、席の間隔の取り方、検温や消毒、マスクの着用、こういった課題に対してはどのように指導し、対応していくのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

現在、市民会館等のホールにつきましては、座席数の制限を行っております。国の示した基準では50%以下という制限であります。その制限の件を申込み時に説明させていただいたときに、マスクの着用、手指消毒、検温などの説明をさせていただいたところ。また、実際ホールを利用される場合には、定期的な換気もお願いしております。

また、先ほどお話のありました楽屋等の件ですが、なるべく密にならないように団体等の数が多

い場合は、入場時間を別々にして、対応するようにいたしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

よろしく願いして、糸魚川市の農業について入らせていただきます。

田んぼ1枚転換推進運動、チラシもここに頂いてきましたけれども、酒米を中心に推進していくと。この期間も8月末で終わったかと思うんですけども、酒米をやる背景とか、あるいは市内の取組状況については把握されていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

市内で酒米を対象に今回取り組むということでございますが、これはコロナの影響により、酒造会社のほうで米が不要になったということでございます。ある程度はJAのほうで契約しているところであれば、飲み込めるところでございますけども、今回そういったこともできない状況から、積極的によく利用するという部分で、この制度を利用させていただきまして、今回対応するというところで動いたものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

酒米以外の品種、食用米への取組も促しているわけなんですけど、そちらへの対応というのはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

今回、お米を需要の関係で対象となるということでは、市内のJAはじめ主立った農家さんに状況をお聞かせいただいております。その中で、多くのところではこれに乗らずに対応できるというお話を頂いているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

それ伺ったのは、結局、非主食米への転換を促しているんですけども、心配されるのは、主食

用米と非主食用米の価格差、それから補助金の内容、それから、それを加えての生産者の収入の違い、それが明確に伝わっているのかなど。その心配があるわけですがけれども、実際はどうなんでしょうか。転換した分も収入は下がらないから推進してると思うんですがけれども、その辺の周知というのはできているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えします。

当市において、非主食用米ということになりますと、具体的には飼料用米というものを取り組んでございます。銘柄的には「新潟次郎」という食種でございますが、議員の言われますとおり、やはり価格差があるということでございます。具体的には、キロ当たり非主食用米ですとキロ当たり5円、コシヒカリであれば、令和2年であれば約230円ということのでかなりの差がある。これを10アール当たりということになりますけれども、コシヒカリであれば11万7,000円ぐらいの収入が見込めるということもありますけれども、そちらのほう負けないように交付金として交付していると、やっている状況であります。

また、特に「新潟次郎」につきましては、同じコシヒカリ470キロという反収ありますけれども、このままで行ってしまうと9万6,850円ということで、コシヒカリを下回ってしまう。そのために作れば作るほど交付金がもらえるという仕組みになっておりまして、最大で今620キロまで上げれば、12万2,600円ということで、単純ではありますけれども、コシヒカリを超える収入も見込めるというような状況で制度のほうを運用しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

もう一点心配なのが、今回、仮渡金の発表がありまして、大変大幅にかつてない下げ幅、特に「新之助」、「新之助」については、作期が分散するとかいろんな条件の中で推進してきたわけですがけれども、まずこうなった背景をどのように捉え、これからの戦略の練り直し、見直し、それをしていかなければいけないのではないかと思いますけれども、その辺の考えをどのようにしていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えします。

「新之助」につきましては、議員のほうから言われましたとおり新たなブランドとして動いてまいりましたが、残念ながら今回大きな減額となったということでございます。課題のほうは、やはり大きなところでは、消費者へのPRが不足しているというお話もあり、特に中京圏や関西圏

では、ほぼ知られていないというような状況があるというふうにも私どもお聞きしてるところでございます。今後はこういったところをしっかりと取り組んでいくというふうにも、県のほうも努めておりますし、私ども市のほうもこういった状況を受けながら、決してこれによって「新之助」の作付の意欲の減退がちょっと危惧されておりますので、そうならないようにしっかりと県と歩調を合わせて、売れるように、また生産者の方々とお話をしていきたいというふうにも考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

次に、中山間地の農業であります。公的サポートモデル事業、先ほど答弁で一体感があって、一定の成果があったというような内容だったかと思えますけれども、これ数年間見ている中で、あるいは県のホームページの評価を見ていってみると、使い勝手のいい公的サポートがあれば、地域の活性化、中山間地であってもいい成果が得られるんじゃないかという例ではないかなと。やはり所得補償というのは、有効な制度に見えるんですけども、その辺をどのように捉えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えします。

議員の言われますとおり、そもそもは県のほうで平成29年度から中山間地域の状況を改善する、経営環境の苦しさを補正するという事で、大きな制限なく3年間取り組んでみればどうかということから始まった制度であります。制度は、県が、この制度によってある程度の効果があれば、国のほうへ要望していくということで、現在、国からは令和4年予算要望を見て、要望していくというふうにお聞きしているところでございます。かなりの条件のよい交付金等ございましたので、地域のほうでも積極的に話合いを進められて、しっかりとした取組、話合いが行われ、それによって必要なものを買ったり、整備をしたりということもございます。

こういった制度が、今後、国の予算のことは考えずに広くできるのであれば、こういったことにも取り組んでまいりたいということもございますが、いずれにしても私どものほうでは、第5期の中山間の直接支払いの制度も始まってまいります。こちらのほうも有利な制度になっておりますので、これも含めてしっかりと農業者の方々と取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

今この考えを②、③のほうにもつながっていきます。薬草なんですけども、知り合いの上越の薬草会社、できれば糸魚川の地元の薬草、特にヨモギを使いたいと言っているわけでありまして、非常にニーズがありますし、もともとこの地域は良質なヨモギが採れていて、それも自生であったと



いうことであります。さらに今のような制度を活用したりだとかすれば、いい産業としてなっていくんじゃないかと思うんですけども、現実にはなかなか厳しいところがあるようです。値段の、価格の下がっているのもあるみたいなんですけれども、そういう制度の活用によって、こういう薬草の栽培をもっと産業として取り組めないかなと思いますが、考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

薬草ということで、特に当市においてはヨモギという品物が非常に、昔から栽培され、自生しているというところもあり、そういったものを活用してきております。先ほどの産地交付金という制度の中でも、それに制度がありまして、それにつけ足して出している。また、ほかにも山採りということで、山から採ってきて、お年寄りの小遣いにされているという実情もございます。こちらにつきましても、なかなかそういった方が高齢化になってしましまして、お金だけではないのかなというところもございますが、せっかくいい販路もあるということで私ども考えておりますので、そういったところを今後、JA含めて、また改めて研究してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

ニーズはあるわけでありまして。同じくニーズがあって、取り組んでいるのが、生薬の栽培があります。今、能生地域で生薬、盛んにやっているところがありますけれども、数年前まで、これまでは中国が主な産地として国内のメーカーは中国から輸入していると。だけど数年前からは、様子が変わってきました。価格が上がったりとか品質の問題とか、国内の栽培にシフトしようということで、栽培の指導を始めて、そして上質な生薬を確保しようとして、生薬協会等もあるわけですが、そういったところとの連携をしながら、こういうものがあれば積極的に確保して、需要があるんだというふうに押し上がってるわけですね。能生のほうでやってるのは、今、キキョウとセンブリ、これがほぼ絞られて、これから本格的な栽培に入っていくと。

ただ、やはりもう一步、栽培から収穫して金になるまで2年かかるとかいろいろあるわけで、もう一步、公的サポートのようなものがあれば進められるのにというところがあるわけですね。やはりヨモギは転作作物の作物の奨励品種にはなっているんですけども、転作作物、あるいは所得補償、こういうものの制度を活用できないものかなというふうに思いますけれども、その辺の考えというのはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

現在の薬用食物の栽培、キキョウですとかセンブリ等の栽培につきましても、私どものほうでもお話を聞いているところであります。こちらについて、いわゆる所得補償というお話のところでご

ございますが、大きな私ども国の制度であります、まずは一般的に普及しやすいもの、そして価格がある程度補償が必要であろうというものでございます。そうなった場合に今ほどの薬用植物の栽培のときに、しっかりと皆ができるのか、それと販路の課題等があつて、良い品物を作れば、確かに価格はいいもので引き取っていただけますが、駄目なものという判断をされますと、引き取っていただけないというような難しさもございます。今、これから始まって、実証から、来年度から本格的な栽培になるということでございます。そういった栽培状況を、また私どものほうともお話をさせていただきながら、見させていただきながら、そういった制度に乗れるかどうかを含めて、今後の研究課題にさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

聞いたところによりますと、非常に反収も、米から比べるといいんじゃないかと。また、手間もそんなにかからない。また、必要な設備というものもそんなにかからない。1つはやはり先ほど、時間がかかるということと、あと販売については指導しながらということで、できればこの辺をクリアできれば広めていきたいと。耕作放棄地の解消の大きな対策になっていくんじゃないかなということで、私も注意しているところでありますが、案外、先ほどの薬草、それからこういった生薬、この地域としては合ってるんじゃないかなと思うんです。もうちょっと何か一押しがあれば、非常にいい中山間地の活性化の材料の1つになり得るんじゃないかなと思うわけであります。

全国では、今、この生薬協会との提携は7自治体ということで、本当は8つ目を目指したところ、大火のときにちょうど当たってしまったということで、これはできなかったけれども、今それに準ずるように指導を受けてるし、先ほど言いましたように環境も変わってきて、非常にいい、求められているいい状況になってるというふうに聞いておりますので、今後その辺のところを連携できれば、よろしくお願ひしたいなと思うところであります。

こういったことをやりながら、先ほど集積状況は、糸魚川市は中山間地が多くて、なかなか進まない。無理にできないところは集積はしなくても、こういったところにおいて、あと一歩やれば担い手も生まれて、収入が確保できるというふうなものができるんじゃないかなというふうな期待も寄せるわけですが、その辺の考えといいましようか、そういう支援の在り方というものをいま一度お願ひしたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

当地域では、米一辺倒だったという背景の中で、国・県含めて園芸作物ということで、米に寄らない新たな作物を作っていこうというようなことで、今推進がされております。当市としましても農業者の方々の収入、所得が増えればということで、現在、園芸の推進をしているところでございます。

そういった中で、そういった取組がいろいろと広がっていくということは、大変私どもとしても

期待させていただいているところであります。今後、圃場整備も進めているところでございます。そういったところと合わせ持って、そういった取組、法律的な取組やら様々な課題、あればそういったものも課題を解決するというで動いていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

よろしく申し上げます。

空き家対策であります。今回、略式代執行で行いましたけれども、これは普通、代執行を行った場合は、その費用というものが回収がしたりすることもあるんじゃないかなと思うんですけども、今回その見込みはないように前に伺ったように思うんですが、その辺の概要をちょっとお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

本来、所有者が除去するのが原則でございますので、そちらのほう所有者がおりますれば、そちらのほうに請求するということになるんですが、今回の所有物件につきましては、全て相続放棄がされておりまして、所有者がいない状態となっていることから、市が略式代執行をしたものであります。

○議長（中村 実君）

田中議員の発言の途中でありますが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

もう一点、ここで終わるつもりだったんですけども、先ほどの市長答弁で特定空家はないというふうに伺ったんですが、前、同じような質問のときに資料を調べてみましたら、平成28年の対策協議会の資料では、80件特定空家があるような内容だったように思ったんですけども、その辺の違いというのはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

特定空家につきましては、空家等対策協議会において認定するものでございまして、以前は危険を伴う空き家については、数あったのかもしれませんが、昨年現在、特定空家として認定されてい

たものは2件ございました。そのうち1件は、ご自身、所有者ご自身が除去されまして、それで今回、略式代執行を市が行ったことによりまして、特定空家がなくなったということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

ありがとうございました。

以上で、一般質問を終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

昼食時限のため、13時まで暫時休憩といたします。

〈午後0時02分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。〔8番 新保峰孝君登壇〕

○8番（新保峰孝君）

日本共産党の新保峰孝です。

私は、新型コロナウイルス等感染症対策と地域医療の充実について、産業振興について、子ども医療費助成についての3点について、米田市長のお考えを伺いたいと思います。

1、新型コロナウイルス等感染症対策と地域医療の充実について。

(1) 糸魚川市における新型コロナウイルス感染症の影響をどのように捉え、検査体制、医療体制、経済対策等、どのように対応してきたか。

① 医療機関、福祉施設、学校関係者、企業、飲食店等、集団感染しやすい事業者への影響、働く人たちへの影響をどのように把握しているか。感染状況と連携した対応はどのようになされたか。

② 相談体制、PCR等検査体制、隔離・保護施設の確保、入院・病床確保等の医療体制、保健所と開業医・病院との連携、各事業者の対応は、どのようになされたか。

- ③ 経済対策等の効果をどのように捉えているか。
- ア 飲食業、宿泊業等事業者支援策の効果。
  - イ 特別定額給付金、介護保険料、国民健康保険税の減免制度等、市民への支援策の効果。
- ④ 学校等への支援策の効果をどのように捉えているか。
- (2) 今後、秋・冬のインフルエンザと新型コロナウイルスが同時流行することも考えた感染症対策が問われることになるが、どのように対応する考えか。
- ① 保健所の相談体制とPCR等検査体制、発熱外来の設置等での関係者間の連携、隔離・保護施設の確保、入院・病床確保等については、どのようなやり方で進める考えか。
  - ② 半年経過後の市内経済の現況をどのように捉えているか。経済対策の強化も必要になってくるのではないか。また、学生支援のような市独自の支援策の強化も検討すべきではないか。
  - ③ 新型コロナウイルスを早期に抑え込むには、感染震源地対策の強化が鍵になるのではないか。
- 都市部の感染震源地域の全住民、事業所全体でPCR等検査を実施する。地域ごとの感染状態情報を住民に開示する。医療機関、福祉施設、学校等、感染リスクの高い関係者に対する定期的PCR等検査を行う。陽性者を隔離・保護・治療する体制の確立等、国に求めることが必要ではないか。
- (3) 国による医療費削減政策が進められてきた結果、新型コロナウイルスの感染拡大により、医療人材確保や病院経営に大きな打撃となって現れている。厳しさを増す糸魚川地域の医療について、どのように考えているか。関係者間の連携がますます求められてくると思うがどうか。
- (4) コロナ禍で運動不足になりがちなときこそ健康寿命を延ばす取組が必要と考える。どのような取組を行っているか。
- 2、産業振興について。
- (1) 市内産業の推移についてどのように捉え、どのような振興策を取っているか。
- ① 就業人口や市内総生産実額において農業の落ち込みが激しい。農業、林業の衰退は、中山間地域の水田、畑、山林等の維持管理に直結し、災害防止の面からも大きな影響がある。農業の担い手不足が顕在化している中で、中山間地域の資源を生かした取組強化が求められているのではないか。
  - ② 漁業の就業人口は減っているが、海洋資源を生かした取組は、糸魚川市の特色を生かした取組となる。6次産業化方式をさらに研究強化すべきではないか。
  - ③ 1次産業も含めた幅広い起業支援を行うと同時に、中小企業支援策の強化を図るべきではないか。
  - ④ 新たな仕事を創り出すための農林漁業振興公社をつくり、地域資源を生かした仕事づくりに取り組んだらどうか。
  - ⑤ 新型コロナウイルスの感染拡大により、価値観の変化が言われている。地域資源を生かした新たな仕事づくりが、誘客に結びつくような取組にしていく必要があるのではないか。
- 3、子ども医療費助成について。

当市の子ども医療費助成事業は、入院、通院ともに高校卒業までの助成となっている。入院は全額補助だが、通院では一部負担金がある。通院も全額補助できないか。

以上、1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

新保議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、集団感染を起こさないため、福祉施設、学校、宿泊施設などを対象に、保健所から指導いただいております。

2つ目につきましては、保健所を中心に医師会と連携し、体制づくりを進めております。

3つ目につきましては、各種経済対策により、相当の効果が現れていると認識いたしております。

4つ目につきましては、衛生管理、健康管理を徹底する中で、教育活動は順調に行われております。

2点目の1つ目につきましては、保健所を中心に基本的な対応策を継続しながらインフルエンザの流行に備え、対応してまいります。

2つ目につきましては、厳しい状況が続いていると認識しており、今後も状況に応じて経済対策を行ってまいります。

3つ目につきましては、必要な措置について、県と連携して国に要望してまいります。

3点目につきましては、糸魚川総合病院や医師会と情報共有しながら、必要な支援を行ってまいります。

4点目につきましては、外出自粛に伴う運動不足解消に向け、感染予防対策を行いながら各種運動教室を開催いたしております。

2番目の1点目の1つ目につきましては、今年度から中山間地域等直接支払制度に設けられた新たな棚田の地域資源を生かした取組について、周知してまいります。

2つ目につきましては、加工・販売する事業形態を参考に、漁業者と連携して取り組んでまいりたいと考えております。

3つ目につきましては、引き続き企業創業など、中小企業支援を継続してまいります。

4つ目につきましては、現在のところ考えておりません。

5つ目につきましては、地域資源を生かした農林水産業や観光産業の取組を促進してまいります。

3番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

新保議員の3番目のご質問にお答えいたします。

これまで段階的に拡充しており、現時点では、全額助成の考えはありません。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

1点目のコロナウイルス等感染症対策と地域医療の充実について、伺います。

病院の経営が、新型コロナウイルス流行前から比べると、経済的に厳しくなっていると報じられていましたけれども、糸魚川市では、医療の分野への影響はどうか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今、新保議員のご指摘のように市内の病院、医院でも人との接触を避けるために受診控えであったり、また、病院等では手術の先送りがあったりというようなことから、経営には響いておるといふことは、県の行った実態調査でも明らかになっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

福祉関係、介護等の関係であります。集団感染しやすい職場であり、非常に気をつけていると思いますが、市からの情報提供と感染防止については、どのように対応されてきたか、情報がスムーズに知らされていない、どのように対応すればいいのか、との声もありましたが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

国から感染症対策に関しますガイドラインといったものが随時発出されております。こちらにつきましては、3月以降、全事業所に情報提供するとともに、国・県から、また情報提供されておりますマスク、消毒用アルコールの配布等に関する情報についても随時情報提供しております。

また、先週ですが、9月2日、介護・障害者事業所向けの感染症に対する研修会も保健所の方から行っていただきまして、そちらについての対応も行っているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○ 8 番（新保峰孝君）

小中学校の対応ですが、感染を防ぐための取組はどのように行われたか。3密を避けるためにどのような日常的な取組を行ってきたか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

まず、学校の衛生管理につきましては、日常的な消毒作業、それから学校の施設整備の安全点検、そういったことを対応しております。また、保護者と連携しまして、子供たちの日常的な健康管理、健康観察を徹底しております。さらに、教育活動でありますけれども、3密を避けるための様々な工夫、それを徹底し、工夫しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○ 8 番（新保峰孝君）

3密を避けるための工夫というのは、例えばどういうふうなことがあるか、何点かお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

例えば密になりがちな教室での学習活動につきましては、できる限り密にならないように環境を徹底するとともに、また、必要に応じて空き教室などを使いながら、分散させて学習するなどの措置を取っております。また、集会活動等、全校が一堂に会するような場合には、そういった密になる危険性がございますので、テレビ会議などのICT機器を導入しながら、3密回避に努めてるところです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○ 8 番（新保峰孝君）

企業関係では、感染防止策の徹底が図られていると思いますが、特に県外との取引がなされている大手の会社はそうだと思いますが、対応策についてお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）



大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

糸魚川経済団体連絡協議会が、さきに行いました調査によりますと、市内の事業所におかれましては、大勢が集まる会合や事業の中止ですとか延期をはじめ、従業員への健康管理の強化、また海外出張、国内出張の取りやめ、在宅勤務、時差出勤等の採用等が挙げられております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

飲食店関係は、経済的にも感染リスクの点でも一番厳しい職場だと思いますが、どのように対応してきたか把握されておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

飲食店や宿泊施設関係につきましては、業界別のガイドラインに沿った取組、それは施設の規模ですとか業種によって異なりますが、それに沿った対応が取られてきてるというふうに考えておりますし、元気応援券の実施に当たりまして、観光協会と市内の経済団体が連携して、保健所から講師を招いて勉強会を開催しております。

また、それに伴い、安全対策を行った施設には、ステッカーを貼りまして、安心してお客さんから来ていただくような取組も行っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

糸魚川市内でも感染者が出ましたが、仕事の関係で東京への往来がある職場や集団感染しやすい事業者への対応は、どのようにされましたか。直接的責任、この感染症の関係で直接的責任は都道府県にあるということで、市としての対応が不十分ということはありませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

企業の方々につきましては、基本的には企業のそれぞれの自主的な活動において行っていただいております。それに対しては、県または保健所のほうから適切な指導があって、その上で行っておるといふふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○ 8 番（新保峰孝君）

市内における非正規労働者の解雇、非正規雇用の雇い止めは、そういう点についてはどういうふうになっているか、長期化すればするほど弱い立場の人たちへのしわ寄せが行くと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

現時点では、コロナに関する解雇の関係の影響は、直ちに現れているという状況ではないというふうに思っておりますが、県内でも比較的大きな規模の都市等につきましては、影響が現れてきておりますので、今後ともその動向について注視していく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○ 8 番（新保峰孝君）

ぜひ雇用が守られるような立場で頑張ってもらいたいと思います。

感染状況と連携した対応ということで、市内で感染者が出ましたけれども、その際、どのように感染拡大を防ぐ関係者間の連携した対応がなされたかという点についてお聞かせ願えますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

市内で7月11日に、1例目の感染者の方が発生しております。それについては、すぐさま保健所、それから市が情報共有をしながら、行動歴の調査、それから濃厚接触者の把握及びPCRの検査というようなことで、緊張感を持って対応をさせていただいたところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○ 8 番（新保峰孝君）

これまで相談体制は、糸魚川保健所が受け持ち、PCR等検査体制は市外の検査機関、糸魚川市内に隔離保健施設はなし、入院・病床確保等の医療体制は中央病院、保健所と開業医、病院との連携は、連携というきちんとした体制はなかったのではないかと思いますけれども、市内の開業医、病院も経済的以外の影響も大きかったのではないかと思いますので、この点はどうか。

それから、事業者の対応としては、先ほどもお話ありましたが、デンカや明星セメントのような大手は、全国的な事業展開をしていると思いますので、厳しく対応してきたと思いますけれども、感染者を出した中小企業のように、市外・県外に仕事で出かけるけれども東京にはあまり行かないような事業者には、どのような協力要請をしてきたか、お聞かせ願えますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

まず最初の病院、それから開業医、これ医師会になるわけですが、それとの連携についてご説明させていただきます。

コロナ対策で一番大事なのが、医療体制、それから検査体制の確保だというふうに認識しております。医療体制については、これも全員協議会、または議会の本会議場でも説明しておりますけども、まずは感染症の指定病院、それから軽症者については地元の病院というような段階を踏んで入院するような、そんな体制を保健所、それから病院、行政と市と協力しながら体制づくりに努めております。

また、検査体制につきましては、PCR検査センターが設置されたという報道もご覧に、お聞きになったかと思いますが、その検査体制、PCRの検査センターについては、開業医の皆さんのご協力もあって、その検査センターがようやく開設できる見込みになったと。それまでの間、病院、保健所、それから医師会、市も入ってですが、その対応についていろいろ協議を重ねてきたというところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

企業の関係に関しましては、今言われたように比較的大きな事業所につきましては、県外から来られる作業員をはじめ、徹底した安全管理を行った上で操業していただいております。その下請ですとか小さな業種につきましては、大きな事業所の取組を倣って、例えば夜間の会合の自粛ですとかそういうことで、それぞれの事業所の責任の下で事業活動が行われると思うと考えております。

また、飲食店等に対しましては、お盆の前に市長名で再度の安全確保についてのご願いの文書を送付してるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

飲食業等の事業者支援策の効果はあったと思いますが、限界もあると思います、時間的な。新型コロナウイルスを抑え込むことができずに自粛状態が続けば、再度の支援策も検討しなければならないのではないかというふうにと思いますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

飲食業ですとか宿泊業に対しましては、市といたしましても緊急事業継続給付金の支給をはじめ、

プレミアム商品券の発行、元気応援券の発行などで消費の喚起を行ってきておるところでございます。

また、併せて国のGo To トラベルキャンペーン、Go To Eatキャンペーン、県の県民宿泊割引キャンペーン等がありますので、それらと連携しながら今後とも必要に応じて経済対策を打っていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

経済対策の中で、介護保険料、国民健康保険税の減免制度には、不十分なところもあるのではないかと思います。経済的に大変になっている人たちのための支援策なのに、事業を行っている方で所得税ゼロとなっている低収入の方は、介護保険料や国民健康保険税を払っているのに減免なしというのはおかしいのではないかと思います。改善すべきと思いますが、この点いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

まず、介護保険料の部分につきまして、私でお答えいたします。

介護保険料の減免につきましては、前年の所得が、議員おっしゃいましたようにゼロ、もしくはマイナスだった場合には、今回、減免の対象とはならないということで、県のほうに確認を取るところであります。そういった方々につきましては、減免ではなく、徴収猶予、納期限を最大6カ月猶予できるというものであります。そういったものにて対応していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

国民健康保険税の減免につきましては、先ほど福祉事務所長が申し上げました介護保険の減免制度と同一でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

介護保険料、国民健康保険税は、県も関係しておりますけども、市が賦課するものであります。いろいろな方面からの国への働きかけが必要であります。市からも国へ改善の働きかけをしてほしいと思います。この制度、それ自体の性格、先ほど言いましたようにコロナ禍で非常に収入が減って、事業収入が減って、困っているというところで、国の判断で計算式上そういうふうになってしまうというのは、やっぱり矛盾があると思うんですよね。ですから、市としてもぜひその働きか

けをしてほしいと思いますが、いま一度いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

今ほどの件につきましては、当市のほうでも十分検討した上で県のほうにも報告を上げてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

ぜひ取り組んでもらいたいと思います。

学校の関係ですが、アベノマスクは評判が悪かったと思いますが、糸魚川市が行った支援のマスクは、まだ時期的に手に入らない、そういう市民の方もおられるときだったので、よかったのではないかと思います。そのほかにも対策がなされましたけれども、今後のことも考えたとき、対策は、この学校関係、対策は十分と考えられておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

対策のほうは、緊張感を持って継続して行ってまいります。

ただ、現在気候的に熱中症が懸念されるところでありますので、例えばマスクの着用等につきましては、熱中症のリスクを考慮しながら、例えば屋外等で活動する場合には、あるいは登下校の際にはマスクを外すことも可能というふうな形で、その時々状況に応じながら対策を取ってまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

今ほど言われたように、状況に応じて対応していただきたいと思いますが、この後インフルエンザ、新型コロナウイルスの同時流行ということも考えられますので、インフルエンザだと学校で学級閉鎖とか学年閉鎖とか、そういうことがこれまでありました。そういうこともありましたので、ぜひ必要な手は行政のほうにも進言して、取っていくようお願いしたいと思います。

厚生労働省が、冬のインフルエンザと新型コロナウイルスの同時流行に備えて、発熱症状のある患者が受診する際、まず近くの医療機関に直接電話で相談し、検査や診療ができる医療機関を紹介してもらおう体制を10月中に整えるよう4日に通知したとの報道がなされました。これまでは、保

健所などに設置された帰国者・接触者相談センターに相談していたのが、直接診療所やかかりつけ医に電話で相談することになるとのことです。糸魚川市内で新型コロナウイルスに対応できる医療機関があるのか、今後、体制を整えることができる開業医、病院等、対応できる医療施設が出てくるのか伺いたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

新型コロナウイルスの感染者への対応ということですが、これについては糸魚川市だけということではなくて、糸魚川ですと上越圏域でまず取り組むということですが、これまでも準備を進めてきております。

まず最初、感染しましたら上越のほうの感染症の指定病院でありますし、またそこがいっぱいになってくれば糸魚川地域の病院ということになるわけですが、糸魚川の地域の病院についても患者受入れのために必要な施設、設備、そういうものを国・県の補助を利用しながら現在整えておりますし、また、市のほうもこの9月の補正予算におきまして、院内感染防止の施設、設備等の補助をしていきたいということで、地域医療の医療体制の確保について努めておるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

これまで保健所が行ってきた仕事との関係なんですが、多少の前後はあると思いますが、11月からは開業医、病院が、最初の相談窓口になるということですが、インフルエンザか新型コロナウイルスかの違い、その判断をそこでしてもらおうということですか、それともそうではないのか、その辺のところをお聞かせ願えますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今、新保議員がお話しになった内容については、この土曜日、日曜日、月曜日当たりの新聞で、私も見させていただいております。詳しい内容については、まだ通知も来ておりませんし、どういう形で運営されていくのかということも、まだ手元には来ておりません。

ただ、そういう国から示されるもの、また、県の方針が出れば、それに基づいた対応を市としてもしっかり取っていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

先ほども少しお話ありましたが、今後、糸魚川市内においてPCR検査の体制を整えるというこ

とありますが、新しい体制との関係はどういうふうになりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

私、先ほど説明させていただきましたのは、PCR検査センター、これは保健所が設置・運営して、開業医の協力を得ながらそれを進めていくという内容であります。

今、新保議員との質問と、PCR検査センターとどういう関わりになるのか、ちょっと私、今の質問では承知しかねるものですから、その辺り反問で少し詳しく教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

反問をお願いします。

先ほど新保議員にご説明しましたのは、PCR検査センター、これ開業医と協力しながら保健所が設置・運営するわけですが、それと今のご質問との関係について、もう少し詳しく教えていただきたいと思います。

○議長（中村 実君）

反問を許可します。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

これまでは、そのものの名前で言うと保健所に電話をして、そして、どうすればいいですかという指示を受けて、患者さんは動く。今度は新聞報道によれば、診療所ないし病院なり、かかりつけ医なり、そこに電話をしてくださいというふうになるということですよ。そういうふうに報じられてると。そうすると、今までは保健所に電話して指示を仰いでいたんだけど、今度はかかりつけ医に、例えばAさんはかかりつけ医に電話したと。そうした場合、今まで保健所がやったことをかかりつけ医がやるんですかと。例えば今度はPCR検査の体制を糸魚川市内で整えると。ここへ行って、検体採ってくださいと。で、はっきりさせますという流れはどういうふうになるのかというのをお聞きしたいんです。

○議長（中村 実君）

反問を終了いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

それにつきましても先ほどお話しさせていただきましたように、この二、三日の間の国の通知等

でありまして、まだ全て全容を把握しておりません。

ただ、最初には、今議員がおっしゃったように、かかりつけ医なり開業医のほうへ患者のほうから相談、もしくは受診いただくと。その後、恐らく今までと同じようなPCR検体を採るような流れになるかというふうに思っておりますけれども、まだ詳細については、手元にはないものですから、詳しくは今ここでは答弁できないということでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保健員。

○8番（新保峰孝君）

ちょっと繰り返しになるかと思うんですけどちょっと恐縮なんですけど、市内に感染者がいない状態をつくって、市内への出入りがチェックされて、感染者がいない状態を維持できれば、市内経済の循環がスムーズになると思いますけれども、人の出入りは止められませんので、実際には難しいと思います。そうであれば、最低限3密を避けるというふうな、そういうこととか、先ほど述べました新しい体制とか、そういうものを活用しながら、もうしばらく今の状態を続けなければならない。そうならば、今持ちこたえているそういう業者の皆さんも、ますます厳しくなってくるのは、これは明らかだと思うんですね。それらを考えたら、現状では第二弾ですね。今の制度を活用するのは活用する。それはしっかりやるというのは大事ですが、今時点、大丈夫だけでもこの先厳しくなってくるというのがあるんでないかと。そういうときは、また第二弾が必要でないかということなんですけど、いま一度考えをお聞かせ願えますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

見辺産業部長。〔産業部長 見辺 太君登壇〕

○産業部長（見辺 太君）

お答えします。

今ほど議員のほうから、経済は糸魚川市の中で回っていればというようなお話も頂きましたけれども、やはり糸魚川市だけの経済が回るのではなくて、糸魚川市以外も含めて経済は回っていると考えております。そんな中で、糸魚川市だけ発生がゼロだから全てがいいというわけではなくて、経済はそれでは絶対回らないというふうに考えております。今現在、特效薬もできてない状況の中で、行き先が見えない状況というのは、誰もがそうだろうなというふうに思っております。半年どころか1か月先も見えてない状況下にあると思っております。

そんな中で、コロナはコロナでございますが、例えば台風による影響、今、九州で大きな台風が来ております。あれも気圧の配置によってはこちらに来る場合もあるかもしれません。また、天候は不順になっておりますので、農作物とかそういった部分についてもいろんな変動が出てくると思います。そういった意味で、経済はこれからどういうふうな変化が出てくるのか、ちょっとずつちよつとずつ変わってくる中で、私らとすれば関係団体としっかりお話をして、なるべく近い線の対策というものをなるべく早く出していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕



○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

糸魚川市は学生支援策も行っておりますが、大学に集まることができない、オンライン授業も十分と言える状態ではない。バイトも厳しくなったと。実家にいるけれども、アパート代は払わなければならないというような厳しい状態の中で、退学・休学を考える学生も出てきていると報じられております。先日、テレビで報じられておりましたけれども、市独自の支援策を強化して、アパート代等の補助も検討すべきではないかと思っておりますけれども、いかがお考えか、いま一度お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

今、議員のほうから、確かに今大学生、後期授業のほうがもう始まっている大学もあると思うんですが、確かにオンラインで対面授業ができないという、非常に厳しい状況があるように私も受け止めております。こういった状況は、糸魚川市独自で、なかなか取組というよりもやっぱり全国的なものでありますので、やっぱり文部科学省、国が中心となった学生支援というものが、まず第一義にあるのかなというふうに思っております。そうした中で、市としてできるところはないのかということ、この5月ですけども、学生に糸魚川市の特産品を送って、何とか応援しようではないかと。そういった心の支えをやってまいりましたので、そういった取組は状況を見て、検討しなきゃいけないというふうに考えておりますけども、今、議員の言われる部分については、まずは第一が国のほうでしっかり対応するべきではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

感染震源地対策を中途半端にしておく、いつまでたっても新型コロナウイルスを封じ込めることができないというふうに思います。都市部の感染震源地域の全住民、事業所全体でPCR等検査を実施する等、感染震源地対策の強化を国に求めてもらいたい。それが最も早く収束させて、日本全体の経済を活性化させることになると思います。これもいま一度ですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今ほどありました感染の震源地域、例えば首都圏等であるかと思っておりますけども、東京都でありますとか千代田区、世田谷区、また神奈川県、こういうところでも独自の感染症のためのPCR検査に乗り出しておりますし、国についても感染拡大地域では、集団感染防止のためにいろんな検査対

象の拡大をしていくということでもあります。市としましても県を通じて感染拡大を防止するためのPCR検査については、拡充するよう要望していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

専門家の中でもいろいろ考えがあると思いますが、この方法でやれば一番早く経済を再開といいますか、もう一回、活発にできる最短の方法だというふうに言われている専門家の方もおられます。ぜひこういう点を頑張って取り組んでいただきたいと思います。

糸魚川総合病院の老人保健施設「なでしこ」閉鎖問題は、当地域の医療、高齢者福祉の厳しい状況を表していると思います。そうであればなおのこと、医療と福祉、介護は、つながっているものでありますから、関係者間の連携が重要になってくると思います。コロナ禍では、なおさらだと思います。感染者が出た場合、関係者間の連携、情報共有、これはどのようにされているか。先ほど答弁ありましたけども、それぞれの施設ごとに、糸魚川市に感染者が出ましたというときにどういう対応をされるか。そういう情報を速やかに伝えて、その手を打ってもらうということも大事ではないかということですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

市内で、仮に感染者が発生した場合、今ほどお話がありました医療、福祉、介護というのは、最も心配しなければならない施設であります。それらにつきましては、必要に応じて情報を共有していくと。全ての情報ということになりますと、プライバシーの問題があったり、いろいろ厄介な問題もありますので、必要な情報があれば、例えば行動歴、そして濃厚接触者の関係、そういうものについては、きちっと情報共有していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

運動不足対策といいますか、自粛の中でどうしても、今までどおりの活動なり外へ出て動くということができない状態が続いているわけですが、こういうときこそ、やはりそれぞれの家庭でできる運動、あるいは安全な形で集まって行う運動、個人で行う運動等、積極的に取り組むときではないかと思います。コロナ禍での取組の考え方をお聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今、コロナ禍におきましては、3密を避ける行動でありますとか、新しい生活様式を市民の皆さま

んに呼びかけております。そうなりますと、どうしても市民の行動の制約になったり、運動不足になりがちだというのは、ご指摘のとおりであります。

市では、緊急事態宣言が解除された後に公共施設の利用だとか各教室を再開し、また、そこでも感染症予防、また予防をしながらの運動教室というところを進めてきておるところであります。

また、自宅におきましても簡単にできる運動でありますとか、筋トレでありますとか、免疫力を上げる食事など、こういうものを紹介してきたところあります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

特に高齢者が大きな影響を受けるのではないかと思います。密を避けながら取組を強化していただきたいと思います。コロナ禍が過ぎたら要介護度が上がっていたと、そういうふうなことのないように、あるいは介護されるような状態になるということにならないように取り組んでいただきたいと思います。

2つ目の産業振興について、伺いたいと思います。

統計といがわ、令和元年度版の地目別面積を見ますと、平成27年と平成31年を比較しますと、田が173.4ヘクタール減、畑が66.8ヘクタール減、原野91.5ヘクタール増となっております。田畑で240ヘクタール減り、原野で67ヘクタール増えたということでもあります。耕作放棄地、休耕田の面積が増えて、原野となっている田畑も増えているということではないかと思っております。

何年前かに市外調査に出かけた際に、上越ですが、ごみは分別すれば宝の山になるという話を社長さんから聞いたことがございます。中山間地域の水田、畑、山林以外の耕作放棄地、休耕田、原野も角度を変えて見れば宝の山になる可能性を秘めているということではないかと思っております。都市部の人たちの癒やしの場という観点からも見ることはできるのではないかと思います、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えします。

農地に限らず休耕田含めて、全てのフィールドは糸魚川市の自然、ジオとしての貴重な体験の場であるというふうに考えております。そういった中で、私どものほうでもこういった首都圏との交流等も課題として挙げて、これから取り組んでいこうというところではありますが、そういったところで1つのフィールドとして今後検討していく、また、開拓していくという考えもあるのではないかなというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

以前にも話させてもらいましたけども、長野県飯田市は、都市と農村の結制度とも言えるワーキングホリデーだけでなく、体験教育旅行、南信州こども体験村、農村まるごとキャンパスの南信州めぐり大学院等、将来を見据えながら地域の自然資源を活用することに本格的に力を入れて取り組んでいるということでもあります。糸魚川市でも取り組んでいる事業ありますけれども、そのための組織をつくって、体系立てて取り組んでいるところが違うのではないかと思います。どのように思われますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

正直、現在そこまで具体的に議員の今言われてるところを検討してきたこともございません。

ただ、当市においても森林公園であったり、様々な自然に際した施設ございますので、そういったところをいま一度見直して、長野県の飯田市のそういった取組も参考にさせていただきながら、研究していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今、農村体験といたしましては、翠の里ツーリズム推進協議会が中心となりまして、主に聖学院中学校の受入れを行ってきたところでもあります。それと並行しまして、観光協会におきましても体験メニューを増やすなどして、それらを農村体験、また、教育旅行等につなげていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

飯田市では、新たな仕事を創り出して、推進するために新たな公社をつくって、地域資源を生かした仕事づくりに取り組んでいったということでもあります。糸魚川市は、飯田市にはない海の資源もございます。角度を変えた新たな仕事づくりを考えてみることも必要ではないかと思います。

海洋資源を生かした取組は、糸魚川市の強みになると思います。様々な取組が考えられると思いますが、一般的に言えば、加工して販売まで行うということで、利益が漁業者に回るようになるということだと思います。6次産業化、1次、2次、3次まで合わせて6次産業化というふうに言われておりますが、こういう新たな製品開発を研究する仕組みづくりについては、どのようにお考えか、お聞かせ願いたいと思います。現在のところ、県とかいろんなところと連携してやってはいると思うんですね。それなりに成果も出てはいるとは思いますが、さらにそれを発展させていく、そういう考えはあるかどうか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

私ども糸魚川市とすれば、人口減少やら就業者の減少などの課題の取組ということも含めまして、新たな仕事づくり、雇用の確保というところは大きな命題というふうに考えているところであります。そういった中で、やはり現在は、庁内連携、また、外の商工会議所等、漁業協同組合、各団体含めて協議をしているところでございます。

そういった形の中で、現在、林業分野にはなりますけれども、商工会議所のほうが、糸魚川産業創造プラットフォーム事業で糸魚川杉の活用ということで活動を開始されておるということでございます。こういった民での動きというものを私どものほうでもしっかりと見据えて、サポートして、協力し合っていくことで、産業振興になったり、新たな仕事づくり、雇用になったりというふうに考えていくこともできるのではないかとこのように考えております。今後も、私どもしっかりと官・民含めまして、連携しながら取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

漁業協同組合、漁業の関係は、上越漁業協同組合が中心になって取り組まれているわけですが、先ほど言いましたように、現在取り組まれている県とも協力しながらやっているという取組、この取組を、公社のような市の担当課がそれに取り組むと。漁業協同組合で取り組むというそういう形だけでなく、1つ別な組織をつくって、専門にそれに取り組むと。1次産業でそういうふうなことを、飯田市のようなことができれば、さらに仕事づくりやいろんな資源を活用することができるんじゃないかということで、言わせてもらいました。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

議員から今ご提案いただきました農林業振興公社とか、行政と民間事業者だけではなくてというお話だったと思います。やっぱりこういった取組というのは、以前からこういったものはあったものだろうというふうに思っております。

ただ、ここへ来て、新型コロナウイルスの関係で、いろいろやっぱり変化というのが求められています。価値観も当然変わってくるというふうに考えております。そういった意味で新たな仕事をつくる。仕事をつくったら、今度は販路、どこへ売るか。それと誘客するには、いろんなアクティビティーをやっぱり開発しなければならない。そのために大事なのは、やっぱり人材育成だというふうに私は思っております。そういった人材を育てて、そういうコーディネート役、結びつけるというところから出発していかないと、いきなりこういう箱をつくってもなかなか進まないのではないかなというふうに思っておりますので、そういった資源を今、国は、この機会を生かしまして何と

か仕事もつくりながら、販路、それから誘客のためのアクティビティー、そういったところの両立といますか両方がうまくいくような人材を育成するコーディネーター役、そういったところから始めていくのが大事なんだろうなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

飯田市の公社に派遣された方は、市役所の中の非常に優秀な人材をそこに派遣した。そこで始められたということでもあります。そういうふうに成功してるところでは、やはり中心になって頑張ってくれる方が、本当に優秀な方で頑張ってる。それが、これなら成功するなという感じでやられているんですね。

長野県の場合、果樹栽培が多くて、人手が足りない分を都市部の若い人たちの体験とレジャーを兼ねた取組でカバーしようという考え方で始められてるんですよ。今、コロナ禍でありますけども、これもいつかは必ず終息すると。今の状態が続くことはないと思います。見方も変わってくると思いますし、時代とともに低賃金・長時間労働という時代がずっと続いていくということは、私はないと思っております。都市部の人たちが自然を楽しみながらリフレッシュすると。生産物を販売するだけでなく、体験し、楽しんでもらい、リフレッシュしてもらう。それが仕事づくりになると。そういう取組をしているところもあるわけでありまして。糸魚川市もぜひ研究していただきたいと思います。

もう一点、子ども医療費助成の点ですが、新潟県内30市町村のうち、入院については27市町村が高校卒業まで、通院については25市町村が対象となっております。一部負担はいろいろあります。

糸魚川市は、高校卒業までの助成を県内トップで実施されたんですね。その後、いろんな市町村が、それについて後を追ってきたという形になってると思うんです。日本一の子供を育てるという目標を持つ糸魚川市として、通院の一部負担分の全額補助を検討できないかと、いま一度お聞きします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

今、議員おっしゃるとおり県内30市町村の中で、糸魚川市は高校まで全て対象で、入院が無料化されてまして、手厚いほうだというふうに認識しております。本年度から、おたふく風邪予防接種の助成でありますとか、妊婦への産前・産後ヘルパーの派遣を実施するなど、状況を見ながら子育て支援を拡充しているところであります。医業費助成に限らず、総合的に子育て支援を考えていく必要があるというふうに考えておまして、子ども医療費につきましては、今のところ拡充というものは考えていないという状況であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

終わります。

○議長（中村 実君）

新保議員の質問が終わりました。

14時20分まで暫時休憩いたします。

〈午後2時08分 休憩〉

〈午後2時20分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、高澤 公議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高澤議員。〔13番 高澤 公君登壇〕

○13番（高澤 公君）

創生クラブの高澤です。よろしくお願いします。

1、市職員の各種資格取得状況について、伺います。

(1) 市は、資格試験受験料補助金制度事業で、資格取得者の支援をしていますが、助成申込者の中に消防職員のほかに市役所職員はいません。一般職員は対象外なのか、または向上心を持った職員が少ないのか。

(2) 働き方改革が言われて久しいものがありますが、定年退職後の第2の人生が一番楽しいと説く本も出ているくらいであります。有意義な人生後半を過ごすための方法として、資格取得も大事なことと思われませんが、市の考え方を伺います。

(3) 市職員のスキルアップの方法として、各種資格試験の取得は最適なものと思われませんが、職員の意識高揚に対して、どのように対応してきたか伺います。

(4) 難関の国家資格への挑戦は1回でクリアできるものとは限りません。現在の制度では同一試験で何回まで利用できるのか。同時に補助金はどうなるのか。

(5) 市の事業で1款から11款まで全ての事業で外部委託をしています。指定管理や調査、統計、設計、測量など幅広い分野で外部事業者への委託をしています。職員の中にそれら職種の専門資格を持った人の有無によって、費用も変わってくると思います。資格取得は職員個人のためばかりではなく、市の経費節減のためにも大いに役立つと思いますが、いかがでしょうか。

(6) 現在は人生100年と言われ始め、実際に80歳を過ぎても元気で働いている人を見かけます。見かけるというよりも普通の現象となっています。冒頭にも言いましたが、第2の人

生のほうが面白いと言われます。資格を持っていることは、第2の人生の選択肢を広げる意味もあります。市長以下、部長以上の職員は、一般職員の定年後にまで目を配る必要があるのではないかと思います。いかがですか。

1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

高澤議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、市の職員であっても補助の対象となっており、昨年度の職員の利用は4件ございます。

2点目につきましては、退職後の人生において選択肢を広げることにつながると認識いたしております。

3点目につきましては、働く上でのスキルアップの1つになるものと理解しており、職員には、各種助成制度の活用について周知してまいります。

4点目につきましては、資格試験受験料補助制度では、5年間で3回まで申請可能で、補助率は、1回目が10分の7、2回目以降は10分の5となっております。

5点目につきましては、資格を取得することにより、経費節減に有効なものであると思われまので、検討してまいります。

6点目につきましては、資格があることにより、退職後の選択肢が広がることになると思っておりますので、職員には、今後とも各種助成制度の周知をしてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごございますのでよろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高澤議員。

○13番（高澤 公君）

市長どうもありがとうございました。ちょっと聞き取れなかった部分もあるんですが、一般職でも何人か資格取得に名前が出ておるということだったんですが、そこをもうちょっと詳しくお願したいと思うのと、優秀な職員を採用しておるわけですから、優秀な人材を市役所職員になってから、どのようにして伸ばしていくのか、どういうふうな教育をすれば市民のためになる行政になっていくのか、そういう力になるのか、そこら辺の基本的な考え方を聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

議員おっしゃるように市の職員、優秀な方も非常に多くおられます。採用時から年数を重ねる上



で、最初から取っておられた資格を生かす方法と、さらに職員として研さんを積んでいく上で、ある程度計画を立てさせていただきまして、何年のときにはこの研修、何年のときにはこの研修、この職になったらこの研修というような形でスキルアップを上げていくような計画を立てて、職員の研さんに努めておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

資格試験受験料の補助に関する市の職員につきましては、簿記検定、あと小型船舶操縦士等の4件が補助対象、補助をしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高澤議員。

○13番（高澤 公君）

私、監査をやらせていただいております、監査資料が出るたびに注意して見とったんですが、私が監査しているときは1件もなかったような気がするんですけど、4件というのは最近ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

4件という数字は、令和元年度の実績であります。それ以前につきましても、年一、二件は補助したものがございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高澤議員。

○13番（高澤 公君）

くれぐれも資格取得を目指す人が増えてくることを希望しておりますが、難関の国家試験というのは、1回でパスするとは決まりませんよね。市長の答弁では、5年間で3回というふうなことを伺いましたが、これは、いわゆる難しい試験は1回では通りにくいということになれば、何回か面倒見てやらないと、途中で目的を達成するまでに挫折してしまう職員もいるはずなんですよ。そういうのをやっぱり救っていかなくちゃいけないと思いますわ。よくテレビなんかで見る北村晴男という弁護士がいますが、彼は自分で学習塾を運営しながら弁護士の試験に挑戦して行って、8回目で、8回ですよ、8回目でやっと合格したということを知りました。そうやって努力していく人もいるはずなんで、ぜひ最後まで面倒を見てやっていただきたいというふうに思います。幾らなんでもずっと続けて面倒見るというわけにはいきませんので、5年で3回という1つ区切りがあるんだったら、それはそれでしょうがないんですが、それ以上やって目的を達成したという職員には、やはり一定期間を越えた部分の、やれ受験料とか交通費の領収書みたいなものがあれば補填してあげるかと思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えします。

今の補助制度以外にも市のほうで職員に対する自学研修支援制度というのがございまして、自分で受験をしたいという方に対して受験料の半分なり4分の1を補助する制度もございまして、それについては初回は半分出しますけれども、2回目以降につきましては4分の1という制度も持っておりますので、それをご活用していただくように周知してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高澤議員。

○13番（高澤 公君）

私が言ったのは、5年以上かかっても挑戦してる職員には補助してやってもいいんじゃないか、ねえ。受験料とか交通費の領収書みたいなものがあれば、見てやってもらってもいいんじゃないかということを行ったんですが、その返事はどうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

失礼いたしました。交通費についての助成はないんですが、その受験料の補助については、今申しました自学助成という制度も利用して、例えば5回目、5年以降そういう制度も利用できるかと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

補足して答弁させていただきます。

市の資格試験受験料の補助金につきましては、同一資格試験の受験で、5年間で3回が限度ということでありまして、上限は決まっておきませんので、またその次の5年のスパンの中に3回受験できるということでもありますので、また期間がたてば再度受験できる。受験して補助をすることは可能だということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高澤議員。

○13番（高澤 公君）

資格を取得するという事は、やっぱり自信につながりますよね。自信を持った職員が増えていくということは、職場の雰囲気も変わってきますし、効率化も大分図られると思うんですよ。なお

かつ、自分が今担当している仕事に関する資格を取ったというような場合は、その仕事の内容も非常に深く入ってきますから、随分変わっていくと思うんですね。

そんなことで、職務に関するような資格を取った職員、持ってる職員は報酬をやるという方法はどうか、報酬。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えします。

職務において、例えば資格なり研修なりを積んで、自分である程度知識を得た場合に報酬等というお話だったかと思いますが、直接報酬に跳ね返るという制度は、今できておりませんが、今後、例えば人事評価に生かすとかその辺りはちょっと研究してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高澤議員。

○13番（高澤 公君）

報酬といっても給料を上げるとなると、給料表があって全部かまっていかなんから大変なんだよね。それは私はちょっと無理だと思うんだけど、そういう場合にはちょっと何か手当をつけてやるとか、そういうことだったらできるんじゃないかと思うんですが、どうでしょうか、市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

直接、今給料とかそういった手当という形じゃないんですが、確かに職域が広がることによって、そしてまた、能力が発揮できるようになるわけでございますので、評価という点について今考えていけばいかなあと。それをはっきり分かるものがないと駄目なんだろうと思ひまして、そういった基準というの、これからの中でも考えていけるものではないかなとは思っております。

ただ、直接給料というのは、なかなか我々公務員の中においては、ちょっと描きにくいものと捉えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高澤議員。

○13番（高澤 公君）

直接給料を上げるというわけにはいかんと思いますね。だけど、皆さん自分でもらってるから分かると思うんだけど、いろんな手当もらってるでしょう。だからそういうものをちょっと手当として上げてやることに、見てやることになって、やっぱり周りの職員もじゃあ私も挑戦してみようかというふうな雰囲気になってくるんではというふうに思いますんで、ぜひ考えてやってもらいたい

と思います。

仕事に関係する資格というのは、あらゆる資格があるんで、1 款から1 1 款全部関係するような資格になってくるんですが、特に一般会計、特別会計、企業会計、合わせて5 0 0 億になるような市の金額ですから、会計ですから、私は少なくとも簿記2 級ぐらいは要るのではないかな。それと併せて、税理士とか会計士、この会計士というのは難関の資格ですから難しいと思うんですが、そういう人がいけば余計いいと思うんですが、そういうふうな感覚というのはどうでしょうか。難しい試験に挑戦させてって、市の仕事に利用していくというのはどうでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

資格といっても非常に多岐にわたっておるものであるわけでございますし、確かに今ご指摘の会計士ということになれば、早々誰でも簡単に取れるようなものではない部分でありまして、そのような資格を持つことによって、我々も結構、行政の中でそういった状況が頻度にあるわけでありまして、そういったところで役立つことは間違いないので、逆に持っている人を採用するとかということもあるわけではありますが、やはりあるとないとは、大きく違ふと私は捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高澤議員。

○1 3 番（高澤 公君）

難関資格を何人かが持っているということになれば、私は糸魚川市というのは対外的にも信用できる団体だなというふうに見ていかれるんじゃないかと思いますよ。そういう効果もあるんで、ぜひ進めていってほしいと思います。

権現荘が直営事業だったときに税理士のほうへ会計報告をやったと。その費用というのは今分かりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

たしか平成2 8 年の話だったと思いますが、私の今手持ちの資料でいきますと、金額で申し上げますが9 8 万9, 2 8 0 円で税理士事務所へ委託いたしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高澤議員。

○1 3 番（高澤 公君）

全くそのとおりだと思いますね。私も監査しとったときには、1 0 0 万も払ってるんかと思って

おりましたから。

で、民間では、今経理のソフトなんかいろいろ出てますから、ソフトを買ったりして、あるいは商工会、商工会議所へ行って、ソフトを利用させてもらって、全部自分のとこで帳簿を作るんですよ。後は会計士のとこ持ってって、こんでいいですかって、判こもらうばっかにして持ってくる。そうすると大体3分の1ぐらいで済む。

権現荘が、あの頃の金額で約100万払ったというのは、民間でいえば考えられん数字ですよ。権現荘ぐらいの売上げで経理の判こをもらうだけで100万払ってる会社なんかありません。やっぱりあんた方は甘いんだよ、そこら辺はね。だから、権現荘ばかりじゃない。今、今度はシャルマン火打スキー場もある。シーサイドのスキー場もある。同じ指定管理者でも「はびねす」なんかがあるでしょう。全部会計ついて回るんで、そういうとこの指導ができるんだよね、今度はね。それで指導して、会計だけでもいいから半分、3分の1になれば、ちょっとでも経費が減れば、市の財政もちょっと減るわけだよ、今度はね。そういうふうな節約もできる。そうしていかにと駄目なんだよね。そういう資格を取って、そういうふうに振り向けていくというようなことも大事な仕事だと思いますよ、あんた方ね。

後は、金銭に関わることではないかもしれませんが、糸魚川大火の復興のときに、都市の再開発プランナー資格というのがある。再開発プランナーとかね。今にぎわいをどうしようかとやっ取るわけでしょう。観光プランナーという資格もある。そういう資格を持つてる人が復興推進課の中にいけば、もっと違った私は結果が出ていったんじゃないかと思いますよ。そういう資格がないもんね。そういうのをどんどん進めないといかんと思いますわね。

それと、大変大きな値段で始めた事業として、ごみの中間処理場があります。これ非常に大きな金額で、その管理運営については、もう20年、30年先まで決められていくわけですから、大変なんですよ。やっぱり世の中というのは変わっていきますから、変わっていったときに、当初予定した金額よりもちょっとでも少なくなるような努力していかなん。そうですよ、そういう構想をしていかなん。だから、当然、人口は減っていくわけだから、排出されるごみも減っていくわけでしょう。そうすれば、今契約した金額でいいのかどうか。ちょっと減らしてくださいよと交渉しなきゃいけない。そういうときにさ、そういうときに環境に対する技術士だとか環境測量士だとか、あるいは公害防止管理者だとか、そういう人たちがいけば、糸魚川ってこういうしっかりした団体なんだから、我々ももっとしっかりしなきゃというふうに業者が思ってくれる。そういうふうにもっと仕向けていかんといかんと思うんで、やっぱり何の資格でも一生懸命取ってもらえるように進めていかなんわねえ。

職員が、資格を持っていくことによって、今はごみ処理の問題を挙げましたが、いろんな部分で有利な関係で交渉を進めていくことができる、相手とね。それはやっぱり1つの大きな、行政として変えていくような大きな力ですから、行政改革というものに対して、もうそれだけでも、資格者がいるだけで私は行政改革は進んでいくんだと思いますよ。プロフェッショナルな目で見るとからね。それでやっぱり行政改革というのは、新たに違うシステムを入れて、電算会社にまた金をかけたり、そういうことじゃなくて、やっぱり足元からしっかりと何ていいますか、その仕事のプロを育てていくということが大事なものになると思いますよ。

それと、これは市の管理者に聞きたいんですが、糸魚川市は500人を超えるような職員、従業

員だわね、会社にしてみれば従業員を抱えとると。で、そういう大きな団体なんだけど、社会保険労務士というのはいないんだよ。民間では、中小企業診断士とかメンタルヘルスマネジメントとかという、そういう人がいないと駄目なんだよね。で、衛生管理者みたいなもんも必ずいるから、いなければ営業できないんだよ、民間というのは。そういう資格を持つてる人を雇うとか育てるとかしていけば、人事だとか労務管理だとか経営の効率化だとか医療保険、法律全般、そんなところで非常に大きな影響が出てくると思うんですけども、そういう、まず社会保険労務士に、500人を超える従業員を持つとるわけだから、そういうものが需要だというふうに思いませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えします。

おっしゃるとおり、うちの職員、正職員自体で500人を超えておりますし、会計年度職員も合わせますと1,000人近くの人数になつとると思います。社会保険労務士、実際のところ、市で直接、雇用はしておりませんので、その辺り、本当に必要な部分、これから職員として必要なのか、委託をして必要なのかというのも含めまして、ちょっと検討はさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高澤議員。

○13番（高澤 公君）

こんなもん民間であれば、その資格は持ってないと、そろっていないと営業はできん。そのぐらい厳しいもんがあるんだよね。それを公共だからといって、やっぱり500人、1,000人を抱えるような団体が、やってないというのは私に言わせればおかしな話ですが、本当にそこら辺もやっぱり注意してやってもらわんといかんわね。

それと、こんだけ人間がおれば、精神的に変調を来すような職員もおるわけだ。もうちょっと職場に通えんようになったとか、鬱になったとかいろいろおるんだけど、あんたらだっけ見てりや知つとると思うんよね、みんな。どういう人がどうなつとるって知つとると思うんだよ。それなのに、いわゆるメンタルヘルスマネジメントという資格を持つてる人を雇うか育てるか、そういうことはしないんだよ。そういう弱い人を助けてやるんだという、助けていくんだという精神が見えない。私は本当に不思議な世界だと思って見とんだがね。で、そういう人がいるのは分かってて、何とか方法取っていつてきたもんかどうか。そういうのどういうふうに考えますか、これ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

議員おっしゃるように、最近特にですが、メンタル的に何と申しますか異常と申しますか、弱つてくる職員も出てきております。市としては、月に1回嘱託医から来ていただいて、健康に不安のあ

る方は必ず相談をするようにということで、あっせんしてる部分もありますし、あと職員に対しては、ストレスチェックということで、ストレスチェック表みたいなのも配付させていただきながら、それぞれ心の診断といいますか、の辺りを見させていただいた上で、当総務課から、あなた1回受診したほうがいいんじゃないでしょうかとかという、その辺のアドバイスはしておるところでございますけれども、まだ、議員おっしゃるようなメンタル的なアドバイザーみたいなものは市でおりませんので、その辺も合わせて考えていきたいなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足させていただきますが、そういう本当に最近、精神を病む人たちが見受けられるものがあります。そういったところが、職場の周りの人たちの情報、また、上司の情報、そういう中と、そしてまた、今やはりそれが直接当たってるのは、総務課が当たっております。確かにそういう専門ではないにしろ、やはりいかにそういった状況を緩和していくか、また、その職員のメンタル的な面を見ていくかという、専門ではないにしろ真剣に取り組んでおる部分も見受けられております。そういったやはりこれからはもっともっとやっぱり専門的な知識が必要になってくるかもしれません。そういったところはこれから必要になってくるんだろうと思っております。今現在のところでは、そういった形で、職員間の中で対応してるのが現実でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高澤議員。

○13番（高澤 公君）

ぜひ市長、そういう専門的な知識を持つ職員を雇うか育てるか何とかして、早急に設置してやらんといかんと思いますね。

これは余談ですが、合併して初めて来たときの議会事務局長は、霜越東雄さんだった。あれ蛮カラなんだけど一見ね、だけど、あの人か面倒見てる、そういう人がおったんだよね。そんな優しい心を持つ人だったんだよ。だから、そういうのはやっぱり何ていいですか、やってみないと分からない。思いやりというのは、やって結果を出して初めてなんで、思ってるよと言ったって、結果がよくならんきゃ、やっとなんと一緒にんで、ぜひ考えてやってくださいね。

それから、非常に社会のスピードというのは、早くなっていくわけだ。どんどん、どんどん進んでいくからね。そういう弱いところの人を見過ごしていきがちになるんだけど、今、今が変わって。今回のコロナの問題でも、もう変わってきましたね、大分。変わってくスピードを速めていくというのは、コンピューターの技術の進歩であるとか、IT、AIとか、何でもロボットがしていくとか、そういう関係で、より早くなっていくと思うんだけど。

ただ、そんな中でこれからは、人間が何ができるんだということをしっかり考えていかないと駄目なんで、それをかけてするというのは、やっぱり私は経験値だと、経験だと。学校で学んだことでなくて自分で経験したことが変わって、それに対抗していく、スピードについていく基になると思うんだよね。だから、何でもかんでも委託するってことじゃなくて、難しい資格にチャレンジし

て、一生懸命勉強して、何でも自分でやってみること。やってみて初めて結果が出てくるわけだから、そうすれば、どんだけ機械が進んでいっても、機械にインプットするのは人間なんだからね。機械は人間みたいな思いやりを持った仕事を経験してませんから、だから、インプットする力を養っていかなくてはね。そういうふうにしてやっていただきたいと思います。

人間を育てるという意味から言うんですが、私はよく思うんですけど、公務員は一般から見れば恵まれているというふうにとられがちですよ。確かに恵まれとるところもあるから、それはしょうがないかなというふうに思いますが、一般労働者と違って、給料上げればの何だのって労働運動でできるわけじゃあるまいしね。それとか、どっかへ転職しようと思って、一時退職して、次に向かっていっても失業保険はないわけだよ、そうでしょう。だから、あんた方とすれば、よくいろんな集落行って、何かの会議に行くでしょ。で、公務員は恵まれとるからというような言葉は聞くと思うんだけど、そういうときに、いや違うよ、本当はこういう制約もあるんだよということをみんなが言って、カバーしてやったことありますか、職員を。職員はその上に、何か非常に厳しいルールの中で生活してるわけだ、職員の中で。ほんで、なおかつ何かちょっとあると職員のくせに、公務員のくせに見られる。そういう目を気にしてやるとるわけだから、本当にカバーしてやらんなん。私、本当にそう思うんだよ。本当あんた方、なんもカバーしてやらんなと私思ってる。そういう話が全然聞こえてこない。それまでやっぱりカバーして、人間を育ててやらんなわけだから、しっかりカバーしてフォローしてやってもらいたいと思いますね。

それと、定年退職になった職員のいろんな職場へ就けようと思って、市長や副市長あたりは努力してやっておるんだらうと思うんですが、ちょっとやると天下りだとか何とかと言われるでしょう。それで辞めたような経験ないですか、どうですか、言われた経験は。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

本当に議員ご指摘のとおり、公務員というのは非常に公僕として住民のため、市民のためにいろいろやはり職務があるわけでありまして、そういう中でやはり身分を保障されておる部分もあるわけでございますので、ややもしますと今言ったように親方日の丸で、おまえら世間の経済の厳しさ、社会の厳しさというのは知らんだらうというようなところもよく言われる部分もあるかと思うわけでありまして。そういう中で、職員一人一人、全て自分の仕事を持って、対応させていただいております。ですから、今年4月に入った職員におかれましても、やはりそういった職務をやりながら、本当に経験のある職員と一緒にやっておる部分があります。そういう非常に厳しい中においては、やはり精神的にも厳しい環境にあることは間違いないわけでありまして、なるべくそういう人たちに対しては、やっぱり先輩がアドバイス出したり指導していくような対応をしとるわけでありまして、さりとて、やっぱり人間でございますので、なかなかうまく合う、合わない部分もあつたりもして、厳しく自分を捉えとる人もおる部分もあるわけでありまして、そういうことのないようにしていかなくちゃいけないと思いますし、また、そういった自分たちの置かれてる立場というのをしっかり確認しながら、努めさせていただきたいと思っておりますので、本当にそう



いった職員のせっかく対応、またそういった立場というのをご理解いただいていることに関しましては感謝申し上げますし、だからといって、甘えたような願いをするわけではございませんので、しっかりとこれからさらに厳しい時代に入っていくわけでございますので、基礎自治体の1つの職員というのは、より重要な位置づけになっていくんだらうと思っておりますので、これからやはりそういったところに対応できるような職員に育ててもらいたいと。また育っていくような形にしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高澤議員。

○13番（高澤 公君）

ぜひ市長がおっしゃったような形で、優秀な人材をつくっていくことを心がけてやってもらいたいと思いますね。

それと、私さっき天下りと言われると言いましたでしょう。そうじゃなくて、優秀な人材を育てていって、そういう人材が、今度、定年後に第二の人生で新しい職場へ行って活躍する。そういうサイクルができれば、天下りじゃなくて、市役所は優秀な人材を派遣する、人材派遣会社になるんですよ。もう社会出れば、即通用するような優秀な人材の派遣元になるわけだ。そういうふうな発想で育てていってもらわないと困るわね。ぜひそういう発想でもって、大きい目を見て、育ててください。優秀な人材を優秀なまんま育てていって、そのことは市役所の仕事のためになる。また、定年で退職後は、一般社会のためになる。そういうサイクルをつくってほしいと思いますわね。

それと、市長に今ちょっとまたあれなんですけど、市役所という箱の中の職員は、一般民間企業から比べれば非常に高学歴の優秀な人間が育ってるんだよね、多いんですよ。そういう優秀な人間が市役所へ奉職しようって、就職試験を受けて来るわけでしょう。そうすると、そうすると優秀な人間を市役所へ勤めることが目的じゃなくて、それ以上のところを目指すために、市長、40歳ぐらいのまだ若い間に、国家試験の2つや3つちゃんと取らんきゃ駄目だよというふうな指導も必要なんじゃないかね。市役所へ就職する、就職試験の必須要件として、糸魚川市はこう考えるんだよということとを必須要件として出したらどうですか、どう思いますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに向上心、そしてまた自分のスキルアップのために一定のレベルを試してみるという部分にもつながる部分もありますし、仕事の面においてもやはり決して私は無駄ではないし、そうすることによっていろんな仕事にもやはり返ってくる部分があるわけでございますので、そういった資格取得には、今ほどずっと指摘いただいとるように、いろんな資格があるわけでございますので、そういった1つの基準的に捉えてもいいと思っております。本当にそれは、決してこれは市役所についたものではなくて、個人につくものでございますので、その人のやはり人生においても大きな影

響力がついてくるわけでありますので、私はやはり1人の人間として、そしてそういったものにも生きるということをやはり職員にも伝えて、そういったレベルアップを図ってもらいたいなと思っております。

それと先ほど失礼いたしました。もう一つ答弁忘れておりましたが、定年後の職員の活躍については、非常に私は今いろいろと定年になって、民間で今活躍してる人がたくさんいます。非常に喜ばれてる部分があって、非常に私はありがたいなと思っております。そういう、決して自分だけの能力をそのままに抑えることでなくて、培ってきた1つの経験やそういったものを社会で生かすこともまたあっていいのではないかなと思っております。よく天下りと言われますが、ただ単に給料だけをもらっとるのではなくて、実際そういった職務、即活躍してくれとる部分があるわけでありますので、そういったことを定年後もやっていけるような人材を育てていくのも1つの市役所の仕事でもあるのではないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高澤議員。

○13番（高澤 公君）

公務員というのは、安定した職場だというふうに思われがちですが、決してそうじゃないんだよね。その人の考え方で大分変わってくるんだよね。難しい試験が通ったのに、最初は難しいかもしれないけど、じきに2回目、3回目になればなるほど簡単なんですよ。何でかという、法律は一緒なんです。法律が試験の科目の中、3分の1ぐらいを占める。しっかり勉強してたら法律はそんなにころころ変わるもんじゃないから、3分の1はもう勉強済みなんです。後は専門の勉強がどれだけできるかで決まってくるんだよね。だから、1回取れば、後は簡単なんだということを分らせるかだよ。そういう形でもって、どんどんと資格取得者を増やして行ってほしい。そのことによって、先ほど申しましたが、自分の職場の士気も上がる。効率もよくなる。今度は、定年退職後は一般社会で貢献してくれるような人材になっていくということですから、ぜひやってほしいと思いますね。

そういう形で、いい環境をつくっていくということは、市役所の中でいろいろな改革がありますが、現況から脱皮していく、脱却していくチャンスなんです。有資格者を持つということは、決して損じゃないんだよ、得することばかりだと思うんですよ。だから、大きな行政改革につながっていく可能性もあるんで、有資格者を多く抱えるということは、行政改革がもうほとんど進んだんだよと答えも出してもいいぐらいなんです。そういう思いでやってください。

そんなことをお願いしながら、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、高澤議員の質問が終わりました。

15時15分まで暫時休憩いたします。

〈午後3時07分 休憩〉

〈午後3時15分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。〔19番 五十嵐健一郎君登壇〕

○19番（五十嵐健一郎君）

清政クラブの五十嵐健一郎です。

今回は、第2期「糸魚川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」等についてでございます。

大分県豊後高田市では、住みたい田舎ベストランキング、小さなまちランキング総合1位が、豊後高田市でありました。本気の子育て支援、平成30年に第一弾として高校生までの医療費と幼稚園、小中学校の給食費同時無料化、子育て支援拠点施設を市内4か所に開設いたしました。平成31年に市内保育園の保育料の完全無料化、市内幼稚園、市内保育園共にゼロ歳から5歳児の給食費の完全無料化、子育て応援誕生祝い金で最大100万円を支給、1人目、2人目、10万円、第3子が50万、第4子以降が100万。平成2年度の4月からスタートした妊産婦医療費が無料に、市内保育園へ通う保育士等の処遇改善を独自支援、新たな子育て支援のワンストップ窓口を開設。ワンランク上の移住者応援プロジェクトでは、無料の定住地地の予約受付中、空き家バンク利用希望登録がネットで申込み可能に。子育て支援住宅、新婚さん応援住宅、数々載っております。

そこで、糸魚川市が可能かどうか分かりませんが、以下、糸魚川市の取組について、伺います。

(1) 少子化対策について。

- ① 本気の子育て支援と「ワンランク上の」移住定住施策の考えはあるか、伺います。
- ② 婚活・仕事支援制度の充実の考えはあるか、伺います。
- ③ 財源確保対策及び民間提案制度の導入の考えはあるか、伺います。

(2) 糸魚川ブランドの創出について。

- ① 公民連携及び大学連携の取組についての考えはあるか、伺います。
- ② マーケティング支援策と産業支援センター（糸ビズ）の設置に向けた調査研究の考えはあるか、伺います。
- ③ 水の研究とCCRCの実現に向けた取組及びマイスター制度の進捗状況は、どうなったか伺います。

(3) 働き方改革について。

チャットツールの活用及び人事評価制度の整備の考えはあるか、伺います。

(4) 健康福祉対策について。

- ① 地域ポイント制度及び地域通貨の導入の考えはあるか、伺います。
- ② 介護人材の育成・確保とAIの活用についての考えはあるか、伺います。
- ③ ヘルスケアの推進と高齢者の見守りの考えはあるか、伺います。
- ④ 節薬バッグ運動の考えはあるか、伺います。

(5) 防災・セキュリティの取組について。

監視システム設置計画及びSNSを活用した住民からの情報提供の考えはあるか、伺います。

以上で、1回目の質問とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、子育て世帯への各種支援やU・Iターンに対する住宅支援を進めるとともに、テレワークの推進による多様な働き方への対応などを行っているところであり、ふるさと納税等の自主財源の確保にも努めてまいります。

2点目の1つ目につきましては、糸魚川市産業創造プラットフォームをはじめ、民間との行政等支援機構の連携による糸魚川独自の付加価値の創出が進められてきており、引き続き海洋高校の取組を支援するほか、高等教育機関とも連携を進めてまいりたいと考えております。

2つ目につきましては、マーケティング等の支援については、NICOや商工会議所、商工会の経営指導員が担っており、新たな産業支援機能については、糸魚川産業創造プラットフォームの取組を進める中で検討してまいります。

3つ目につきましては、大学や首都圏の自治体との話し合いを始めたところではありますが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、状況を見ながら取り組んでまいります。

3つ目につきましては、自治体専用のビジネスチャットを試験的に導入したところでもあります。人事評価制度につきましては、先進地の状況を確認しながら見直してまいります。

4点目の1つ目につきましては、健康づくり事業等への参加に対し、ポイントを付与する健康ポイントラリーを実施いたしております。

2つ目につきましては、介護人材育成支援事業や修学支援貸与事業等により、人材の育成と確保を行っており、AIの活用につきましては、今後、先進事例等を研究してまいります。

3つ目につきましては、健康いといがわ21に基づき、健康寿命の延伸に取り組んでおり、高齢者の見守りにつきましては、安否確認事業や緊急通報装置貸与事業などにより、実施いたしております。

4つ目につきましては、市内の薬局において残薬回収が実施されております。

5点目につきましては、地滑り等の危険箇所の状況により、その都度、関係機関と協議をし、設置の検討を行っております。住民から頂いた災害危険等の情報は、必要に応じ、安心メール等で周知いたしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。大分の豊後高田市、住みたい田舎ランキング、小さなまちランキング総合1位、私、雑誌見たときに総合1位、これ小さなまちで大したことないんだなとホームページ見させていただいたら、さっき言ったとおりで。昔から、昭和の町ということで、地域資源の再評価による商人の誇りの再生ということで、昭和30年代から行われたところまでございまして、すばらしいやっぱり昔からの、先祖代々からの取組、他人に任せない。まちづくり委員会を設立して、商店街活性化を図る方法を模索して、まち再生プロジェクト、昭和の建築、歴史、商品、商人再生という4つの再生をキーワードにやられたところまでございます。

その成功の要因なんですが、今、駅北で頑張ってる方々、やっぱり特徴をつけて1つの徹底、1つに対して徹底的にマーケティング調査、2年にわたって全国300事例の情報を収集して、100か所の現地調査。この辺までやっぱり深く、昭和30年を再現したいということで行われて、2001年9月で7店舗しかなかったんですが、2009年4月で38店舗に増えている。私は、そこまでやっぱり昔のことから本物追求、そこまで類似施設とは差別化を図った。やっぱり20年前からやってるんだなということで、今回の質問に取り上げさせてもらった。ここまで徹底してて、どんだけ財源必要なのかわかりませんが、ばらまきという表現もありますが、やっぱりほかの全国見てもらって、どこを絞って、どうやるかというのを判断して、ここまでやっぱりやらんなんと思いました。その辺含めて、糸魚川市にどう反映させて、どう取り組むのか教えていただければ幸いです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

議員から、今、大分県の豊後高田市の事例をご紹介いただきました。私もうちのホームページ等で調べさせていただきました。人口が2万2,500ぐらいなんです。2万2,000というと、ちょうど糸魚川市の推計でいいですと2045年ぐらいの人口規模になるんでしょうか。そういった小さなところでも非常に頑張ってもらえるなというのが見受けられました。確かに本気の子育て支援、ワンランク上の移住・定住、こういうキャッチフレーズでやっぱりいろんなきめ細かいところの支援策というのがあるのかなと。それと、財源ではしっかりふるさと納税、特産品という地域資源をしっかり磨きをかけて財源の確保に努めている。小さいながらも議員が今ご紹介いただきましたように、しっかりとしたマーケティングをしながら進めているというところは、非常に参考になるというふうに思います。

糸魚川市のほうも、平成27年から地方創生の総合戦略というのが、やってるんですが、やはりある程度、地域の価値、いいものをしっかり、あり過ぎて困るのかなというところもありますので、やっぱり今あるものをもう一度見つめ直す。今ある地域資源を足を使って見直して、そこを生かしていくという、そんな取組が、これからは必要なんではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

それで、今のホームページ見させてもらおうと、昭和の町、手のひら案内人ということで、楽しみ方動画、ユーチューブで、ぱっと見たら出てくるんですね、何店舗か。ぱっと出せば、そこで動画を映して、そこで何を作って、何が買えるとかぱっと分かる。これがチームラボ「お絵かき草地おどり」、そこで絵描いたところで動画が出てきて、ヒスイ海岸でないですけど真玉海岸、真玉海岸というのがバックにドンと出てくるんですね。そこで自分の絵描いたのが後ろに出てきて、ここで見れば出てくる。目の前に巨大な草原で、草地おどりというのが出てきて、自分で踊れるようなところ。ボンネットバス、やっぱり違う感覚でひまわりフェスタ、温泉もあって海も近くにございます。その辺の写真家、写真コンテスト、花とアート。映画化、映画のロケ地に、ここにします。いろいろ形でもうやっぱり取組が違いますね。その辺までやっぱり考えながらやっていく必要があるんじゃないかということを感じさせていただきました。

それで、もう一つの若者が住みたい田舎ランキング、その3位に飯山市、長野県の飯山市。この私ら先進地で視察行ったときに、観光地を300のプランを立てて、徹底的に観光局で誘致、体験、いろいろな形で300、パンと自分らでやっていただいて、体験してもらおうようなプランをそこでこしらえてできてる。今、若者、移住が19歳以下が2割、30代、40代が5割、ふるさと回帰支援センター。今コロナ禍でもありながら、どんどんオンライン窓口を通して来てるらしいです。今がチャンスだと思うんです。それでどんどん移住者も増えて、2018年が109人、2019年が120人、県外が57人で、県内が63人、その辺で増えてる。私は、今、雪も飯山もあります、その辺も含めて近くだから参考にする必要があると思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

議員からもう一つ、長野県の飯山市の事例をご紹介いただきました。確かに飯山を調べてみますと人口規模は1万9,000人台、2万人を割ってるんですね。そういった中で、今、移住者の方が100人とか120人とか、非常に人気があるのかなというふうに思っております。やっぱり若い人にターゲットを絞って、いろんな体験ができる。若者志向といいますかアウトドア、今コロナですのでどっちかっていうと都会から外へ出たいという志向が、いろんな新聞等の調査でも若者でやっぱり6割ぐらいは外へ出てみたいとかというのがあると思います。

そういった機運に乗って進めているんだらうというふうに思いますので、糸魚川市も今、移住相談というのはちょっと首都圏のほうに出向くことは不可能なんです、オンラインとかを使ったり、いろんなUターンのツールを使いながら何とかこちらで、遊べるといいますかちょっとこう遊び心のあるちょっとした体験でも構わないと思うんですね。そういうものはもうあると思うんですが、よりうまく発見して、情報の発信、見せ方だと思うんですが、そういったところの取組をしていく必要がありますし、今後もより一層、そこら辺の強化というのが自治体競走を何とか生き延びる、勝ち取るというところが大事なのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

飯山市やっぱりIターン・Uターン移住者向け賃貸住宅を拡充、空き家バンク制度にも力入れて、2019年度新規物件が、売買家屋が34件、土地も4件で38件を発掘。誓約の建物売買は全国トップクラス24件。やっぱり空き家も含めて土地も含めて売買できるような体制まで図っていると。私はその辺まで図っていく必要もあるし、賃貸アパートもあり、空き家購入もできる。新築選択肢がそろっている。決断が有利だと。幅広いところでやっぱりその辺もかなりニーズも調査してやっ  
てるんでしょう。その辺も含めてぜひ取組も強化していただきたいなど、こう思っております。

それと、前聞かせてもらったとき、島根県の海士町、いろいろなところで地域活性化のモデルと  
かいろいろな形になって、以前は行政改革、職員の給与を削減したりいろいろな形で未来への先  
行投資。行政改革、守りから攻めの産業振興策、攻めの中で島丸ごとブランド化、これは外貨を獲  
得する岩ガキ、カキ、塩作り、農業特区に隠岐牛、牛ですよ。それも含めてCAS凍結センター、  
これはなかなか金額にすりゃ高いんですが、やっぱりそのまま急速冷凍して、鮮度を維持して東京  
や大阪へできる体制。今いっぱい魚も獲れたりしても売るところがないとかでなく、やっぱりそこ  
までためて出荷できるという、そういうところまでやっぱり改革していかないと駄目だなど、こう  
思いました。それで、2004年から2007年まで88人を雇用、U・Iターン93世帯で  
167人を移住ということで、大分前に行ったところで、サザエカレー、それやっぱり商品化を図  
らないと駄目なんで、外部人材の登用を民間から図りながら、よそ者、商品開発研修制度を実施。  
それを臨時職に採用して、どう商品開発をするか。そいで大学との連携もあるんですが、都市部の  
学生を、一ツ橋だとか東京大学だとかその辺も含めて交流を図って、インターンシップで留学生を  
受け入れたり、ニートも受け入れたそうでした。

その辺も含めて、今どうなってるんだなと思って見てみたら、海士町経営特別補佐官チーム、こ  
れも民間から登用して、民間の外部有識者4名で体制して、半官半X魅力化担当、これ1番目。  
2番目が未来投資事業担当、3番目が中小企業活性化担当、4番目が島内経済循環担当、4人で担  
当を民間から来てもらったところをやったり、やっぱり違う、頑張るとところは昔から頑張って、  
今でも頑張るとる。そこをやっぱり重視せんなんと思ってるんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

今度は海士町の事例を言われたと思っておりますが、確かに海士町の取組というのは、隠岐島前  
高校、いわゆる高校を島留学とかをさせて、やっぱり公営塾なんかもつくって、人材を育てるとい  
うのと、あと商品化、島の地域資源というのは、あそこは海に囲まれてますので、いろんなサザエ、  
岩ガキ、春香というんですかね、岩ガキですとか隠岐牛、そういったものをたしか特産品として出  
しておったと思います。やっぱりただ作ってしまうだけだったら、糸魚川市でも幾らなんでも作る  
のはできると思うんですが、問題はやっぱり販路だと思うんですね。たしか海士町ですと東京のほ

うにもサテライトショップを持っていたりとかしてるし、店を持ってるだけでは駄目だと思うんですが、問題はやっぱりそこをつなぐコーディネーターの人材だと思うんですね。糸魚川市でも地域おこし協力隊を、なりわいネットワークとかそういったところで何とか地場産品を売り込みたいという努力はしているところでもありますけども、そういった小さな取組を重ねることによって、何とか販路をつくる。で、誘客もできる。基本的にはやっぱりそこをつなぎつける、つなぎ合わせる人材の育成、コーディネーター、そこが一番キーなのかなというふうに私は海士町行ったときに見てまいりましたので、やっぱりキーになるのは人かなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

昔、子供を島留学させとったんですが、今年からは大人の島留学も事業化されてて、それはそれとして福祉人材及び医師確保も予算化されとると。それで、今独自のみかんの再生、特色ある米、海土産のブドウをワイン事業にと。いろいろ農福連携も含めていろいろな形で販路拡大、商品開発もされとると。

ほいで、先ほどもあったICTを活用した定置網漁業に対しても予算化、これは2億2,000万ぐらいですか、その辺はやれっちゃんではないですけど、その辺まで考えてるとということ、ふるさと納税につながるような海士ファンを増やす。ふるさと納税、これも未来投資基金の事業展開をして、経営事業体の育成及び基盤強化に向けて行ってるということ。

それともう一点、やっぱり先ほども答弁にあったように隠岐島前高校が、少なくなったんですけど、今現在は全体の教育、糸魚川と一緒にゼロ歳から18歳、教育魅力プロジェクト、地域全体を考えている。島外の推薦枠の拡大、寮の部屋数を来年、令和3年から不足するんで、それを頑丈にするということも含めて、未来投資型なんですね。今、人だと言うんですが、やっぱり世代を超えた交流を図ることで地域の未来を担うグローバル人材を育成してまいるということで、そこまでやっぱり考えて、人づくりもしとるとということなんですが、その辺も含めていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

人材育成の仕組みというのは、非常に大事だというふうに思っております。特に当課のほうでは、若者の人材育成という形でいろんな若者の力を使った事業ですとか、まちづくりのパワーアップ事業だとか、そういう若者の活躍というところの事業をやっておりますし、今、教育委員会サイドのほうでは、高校を核とした人材育成という形で、高校の魅力化、何とか地域で子供たちをしっかりと育てるという取組、そういったところが大事になってくると思います。そういった意味では、子供から若者にかけて、やっぱりつながりのあるような取組をしながら、何とか地域活躍人材というのは育成していくということは大事だというふうに思っておりますし、今の時期の総合戦略の中でも、若者の活躍のための取組というところは、重点的に進めなければいけないというふうに思っております。



〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

それで、糸魚川ビジネスセンターを含めて考えてないという答弁なんですけど、今一般質問、私の前の人もいろいろ言っとったんですけど、農林水産業も含めて仕事づくり、創業・起業支援含めて、働くところの強みをどう生かすか、私は本当に人だと思っんです。人材育成、コーディネートが必要。それには糸魚川ビジネスセンターを含めた外部の人を入れる。先ほど高澤議員は、中から育てる。中の人だけがそれだけ企業の売上げを伸ばしたりいろいろな形でできるかどうか、それだったら外部人材を含めて誘致する必要があると思っんですけど、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

仕事づくりの観点からというふうに思っております。確かに今、糸魚川市のほうでも産業部のほうになると思っんですけど、創業支援、やっぱり若い人たちが中心になると思っんですけども、やっぱり自分のスキルを何とか生かしたいというところで創業塾、いわゆる学ぶ場を提供して、そこで学んで、今度実践的にキターレとかいう施設も活用しながら実践して、顧客をつかんでいく。うまく業とすれば、独り立ちをしていく。そういった仕組みというのは、今徐々に小さいんですけどもあるのかなというふうに思っております。

今なかなか仕事というのを、特に若い女性の方の仕事というのは非常に確保が難しいのかなというところで、テレワークという事業も進めておりますので、いずれにいたしましても人づくり、仕事も含めてなんですけど、やっぱり学ぶところの原点から、しっかりビジネスへつなげていく。そういったところは教育と同じような感じで、分かりやすく何かこう明解な仕組みというのが必要だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

今の創業塾だとか創業支援プラットフォームとか、一部の企業とかに偏ってるんですよ。そうではなく、相談を受け付けて売上げを伸ばしてあげる。その相談、コーディネーター、それをつくるために富士のエフビズ、岡崎のオカビズだとか、今20市でやってると思う、20地区で。富山の氷見が、この前9月に立ち上げて、全国から募集してコーディネーター1人を採用しております。その費用は、市も含めて商工会議所、金融機関、いろんなところから出してもらって設立する、その産業支援センター。今、「ひ」だからエイチビズですかね。その辺はやっぱり糸魚川ビジネスセンターぐらいを含めて、相談、年間で1,000件以上だとか、そこ相談を受けたら何人かでやって、その企業を生き返らすのも含めて伸ばしてやるような相談を賜るところなんです。その辺でいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

見辺産業部長。〔産業部長 見辺 太君登壇〕

○産業部長（見辺 太君）

お答えします。

議員おっしゃるのは、商品が売れる仕組みづくりというふうに捉えますけれども、これやっぱり企業の活動の根本であると思っております。大企業あるいは中小企業、小規模事業者等、企業の大きさや業種を問わず必要な取組かなというふうに思っております。

当市においては、B to Bの事業者が多い現状で、取引先が固定していることから、なかなかマーケティング活動として目立っておりませんが、企業の皆様においては、必死に今研究、日々取り組んでおられることと思っております。さらに先に進みたいという意欲のある方は、先ほど市長答弁にもありましたけれども、にいがた産業創造機構や商工会、あるいは商工会議所の支援、また、新潟県の工業技術総合研究所の支援を受けるなど、積極的な取組も見られますけれども、まだまだ利用が少ない状況でございまして、市としても利用促進と支援をしまいたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

もう一つ、今、コロナウイルスの関係で、新しい生活様式への対応ということが、今盛んに言われてるところです。どういった形で、形が決まってくるのかというのは、まだ見えない部分もあると思うんですが、国のほうでも地域未来構想というのがあって、そこの中のオープンラボというところで新しい生活様式への対応のためのプロフェッショナル人材の活用というのがありますので、そういったメニューを見ながら、糸魚川市でどういった分野で取り組めるのか、そういったところをちょっと研究しながら、うまく活用ができるものであれば使っていければというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

今、国の支援もぜひ、その辺でいいから研究していただきたいと思います。見辺産業部長が言われたように、県とかいろいろな、NICOだとかいろいろな形で、行かんなんやんですよね。ここにおりながら人がおるんだから、どんどん、どんどん気軽に相談してくれる体制が必要なんです。

困ったらすぐ飛んでくる。まだ売上げ伸ばしたきゃ来る。そういったら強みを見抜いて具体的な提示をするんです、戦略、これが1つ。

2番目がワンストップコンサルティング、経営からマーケティング、ブランディング、広告、財務、IT、金融に至るまでもうかる会社に変えるきめ細かな戦略がある。それを提案、コンサル集合体なんです。これが2番目。

3番目が継続的なフォローアップ、成果が出るまで一緒に伴走支援をするんです、そこにおれば。氷見でもできたのは、そこなんです。

全国で20ぐらいあるんですが、糸魚川にもそれを、センターを置きながら上越からでも富山からでも長野からでも、来ていただけるような体制づくりっちゃ、今私は必要だと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かに今、議員から言われたように、ワンストップでのサポートというのは大事だと思います。市でもいろいろ創業支援ですとか企業支援というようなものは、やっておりますけども、そういった中でもやっぱりフォローアップというのも非常に大事だと思います。ただ起業して、その後はではなくて、やっぱり継続してできるようなフォローアップというのは大事だというふうに思っておりますので、そこら辺の仕組みもいろいろ事例を見ながら、今後は取組を進めていかなければならないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ調査研究ではなく、行動にぜひ移していただきたいなと、こう思っております。

それで、ちょっと飛ぶんですが、マイスター制度、マイスター制度自体はやってるところやっていないと、厚生労働省も含めて、ものづくりマイスターも含めて、糸魚川市にも何人か何十人か分かりませんが、制度はないと思うんですが、そういう技術職も含めて、それに該当するような熟練技術者みたいのはおるかどうか、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

マイスター制度につきましては、糸魚川市では今のところ取組はないというふうに思っておりますが、いろいろインターネットで調べていきますと、新潟県でいくと県央地域やってるかなというふうに見受けました。いろいろ飲食業ですとか、あと職人さんですか、そういった方の登録制度というふうに見ております。いろいろ熟練した技、品物、そういった伝統工芸といいますか、物すごいプロの仕事というのをつなげていく。それを顕彰したり表彰したりとか、それで、より独自の地域の価値を上げていくということにつながっていくというふうに見えましたので、糸魚川市でそういったマイスターの登録が、今後あるかどうか、また産業部門のところとちょっと情報を共有しながら注視して見ていきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ優れた技能と経験を有した熟練技術者を糸魚川ものづくりマイスターとして認定して、その基準はどこまで線引きは、国の関係だとかその辺も含めて研究してほしいんですが、それを11月の中学校のキャリア教育フェスティバルでないんですけど、そういう方々もやっぱり一緒になって、個人経営かも分かりませんが、そういう技術を持った人からも見ていただいて、糸魚川でこういうのもやってるし、実技指導も含めて、産業活動の基礎となる若者技能者の育成を支援していく必要が、私はあると思う。余計、今ITだ、AIだと、すぐロボットで造れるかも分かりませんが、そういう人材も育てる必要があると思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

議員から今、貴重なご提言だというふうに受け止めております。そういった熟練した人たちの育成、それを例えばキャリアフェスティバル、子供たちにといいか、高校生も含めてなんですけども、うまくつないでいって、またそこから後継者が生まれれば、もっと循環がいいというふうに思いますので、そういった技というものをぜひ披露できるようなものというのは、全庁的に呼びかけていきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ調査研究して、行動に移していただきたいと思っておりますし、何十人か何人かおると思うんで、その辺も発掘も必要だと思うんで、ぜひお願いしたいと思っております。

それで、人事評価制度、これも先ほど高澤議員からありました、市の職員を育てていただきたい。全体で1,000人以上おるということなんで、この人事評価制度、ある支援企業のアンケート、自治体・職員のアンケート調査したら、職員の7割は人事評価に満足してない。7割が満足してないそうなんです、糸魚川はどうか分かりませんが。7割満足してないんだったら、それを改正・見直しする必要があると思うんです。それをシステム化するんです。若いすばらしい職員がおるんだから、それを評価してあげて、その構築も含めて、見直しを図るチャンスがやっぱり今だと思うんです。逃さない、いい人材を逃さない、育てる、それが必要だと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

人事評価制度につきましては、議員おっしゃるとおり職員が今までは評価だけを基準にといいますか、点数づけみたいな形でやっておりましたが、この先はやはり育成を含めた、職員の育成を含めた部分での評価も必要になるかと思っております。そういう部分では、評価基準の見直しというのも重要になってくるかと思っておりますので、その辺を研究しながら進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひその辺も含めてやっていただきたい。職員のエンゲージメント向上、やっぱり人材育成、目標達成、業績向上、やっぱりこの3つも含めて評価してあげるような体制づくりやっぺいかなんと思えます。皆さん上司の人が、後輩をやっぱり育てていけるような体制づくりして、よりよい職場を築いていく必要があると思うんです。その辺で、評価システムの中で、評価の公平性を担保できる専用システムの導入。公平な評価、誰かやれば変わるようながではなく、公平なシステム、いろいろなところで宮崎県の西都市とか、鯖江とかいろいろな形でやっぺいところを先進地を見ながら、私は今やっぺいその辺も含めてやっぺい必要があると思う。評価するだけでなく、その先の育成に本当につながっていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり一番人事評価というのは、非常に難しい部分であります。いかにやはり適切な、そしてまた公平性な評価をしてやるということが一番大事でありますし、我々は本当に職員の管理に対しまして、人員削減もしながら進めておるわけでございまして、しっかり活躍していただくことが大事なんで、そういう環境をつくっていく。それに判断する指標になるわけでありますので、それだけはしっかりやっぺいしていきたいと思っております。

ただ、非常に難しいのは、適材適所、そういったとこを考えたときに、本当にいかに場所を探すかというのは非常に難しい部分がありますが、それを分かるような、誰でも分かるような形に持っていくのが一番公平性であるだろうと思っておりますが、なかなかそれが難しい部分になってまいっております。限られた人員で対応するという、これからだんだん、だんだんそれが必要になってくるわけでありますので、より人事評価をしっかりとしたものに持っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

本当にこの人事評価、職員の納得感こそが重要。納得するようなやっぺい評価であってほしい。それで、先進地見ると3つの効果がある。

1つ目が、視覚的に見やすく、操作も簡単で、誰でも抵抗感なく使用できる、これが1点目で。

2点目が、蓄積データの加工・編集によって評価結果を分析できるようになってる、これが2点目で。

3点目が、評価結果を能力開発に生かす上で、職員のやる気、生産性を高める。この3つの効果を得られたっちゃあ、私はすばらしいと思うんで、その辺も踏まえて、ぜひそのシステムの在り方を検討していただきたいなと思います。

次に、ポイント、地域ポイント制度含めて、ちょっと巻き込んだマイナポイントもあるんで、一緒になって、マイナポイントも一緒に考えながら地域のポイント制度も含めて、地域通貨を創っていただきたいなと考えとるんですが、その辺やっぱり統合しながら、単独でやりゃばらばらになるんで、その辺の全体を見ながらどう終結して、より効果の上がるポイントを図っていくか。その辺の研究しての取組はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

それぞれのマイナポイントなり、ポイントを付与する様々なシステムを統合したらどうかというご指摘であります。マイナポイントにつきましても、国が既にスタートをしている事業であります。なかなかそこと今融合するのは、ちょっと時間的には難しいかなというように思っております。ただ、いろんなポイントを総合的にやっていくというのは、市民にとっても分かりやすい方法だと思います。事業を進めていく中で、考えてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひその辺も含めて、マイナポイントがお一人当たり5,000円分が上限もあると思うんですが、そればかり言ってもらえないんで、便利なようなカードも含めてやるべきだと思います。ぜひ研究して、よりよいものをつくっていただきたいなと思います。

それと介護人材育成確保、今、全国的に2019年、老人福祉介護事業の倒産件数が、負債で1,000万以上が111件、これからできるだけ在宅医療、介護の充実の政策に重きを置くべきで、地域を巡回する人材を十分確保する必要があると思うんですが、この辺は介護人材の育成、待遇改善など、振り向けることができると思うんですけど、その辺も含めてどう考えとるのか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

介護のサービスに際しましては、市民であるとか、また、市の保険者機能、さらには今、議員おっしゃいます事業所の介護人材不足というのが課題となっております。そういった中でも既にA Iを活用しました介護のサービス計画、ケアプランを作成するといった研究も出ております。そういったことによりまして、ケアマネジャーの業務効率化によりまして、人材の確保がスムーズにつながるといった事例も見えておりますので、先進事例等を参考にしながら、引き続き研究してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいと思えますし、行財政調査特別委員会で、豊橋市でA Iを活用したケアプラン作成支援、これもビッグデータを含めてケアプランをA Iでやってもらうような形、そういうのも含めてやっていただきたいと思えますし。

ヘルスケア、未病改善、それと節薬バッグ運動、私、全国的に広げるべきだと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

未病でありますとか健康寿命の延伸につきましては、現在、健康いといがわ21、健康増進の基本となる計画であります。その基本目標として現在、取り組んでおるところであります。

また、節薬バッグ運動に関しましては、飲み残しの薬を、それを見つけて適切な服薬につなげたり、また、残薬の次回の調整に利用したり、そういうことが医療費の削減の取組につながるということで承知しております。現在、それぞれ薬局で取り組んでおるところであります。薬剤師会とも調整しながら、どういう取組ができるのか、もし具体的な取組ができるようであれば、進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ全体を振り返ると、財源確保がかなり必要になってきます。その中でふるさと納税を筆頭に、ぜひその辺も含めて考えていただきたい。ふるさと納税、命名権、クラウドファンディングも含めてやっていただきたい。

それで、大学連携、大学と民間と提案制度も含めて、私はやるべきときに来たと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

やはり地方創生、新しい取組ということになりますと、やっぱり大学の研究者の力というのは非常に大事だと思います。県内の大学の連携、協定を結んだりしておりますので、場面場面に応じて、しっかり担当と大学の部署とつながりを持ちながら調査研究というのは進めていく必要があるというふうには感じております。

また、いろんな民間の提案制度でありますけども、いろいろ移住・定住もそうなんですが、いろいろ首都圏の方の民間の事業者さんという方等のつながりというのがあります。そういった中でこういうふうにしたらいいのではないかとか、これからの動きはこういうマーケットがあるんじゃないか。需要があるのではないかとという情報も頂く中で、ぜひ情報の共有をしながら取り組めるものについては、しっかり取り組んでいくと。そういった姿勢で取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ調整するのが、市役所職員の役割だと思っておりますので、その辺もよろしくお願いします。以上、終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

〈午後4時10分 延会〉

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員